

「プラスチックごみ問題って なんだろう！」

～消費者ができるプラスチックごみ削減の取組み～

調査報告書

令和元年 12 月

富山県消費者協会・富山県消費生活研究グループ連絡協議会

はじめに

富山県消費者協会 会長 尾畑 納子

グローバル化が進展する中、私たちは地球規模の環境問題、世界各地でみられる争いなど様々な課題に直面しています。こうしたことから、2015年には国連総会で持続可能な開発のための17の目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が採択されました。今後、私たちは世界中の人々と協力し、これらの目標を2030年までに達成できるよう取り組んでいくこととなります。

県内では、今年7月に富山県が国内の「SDGs未来都市」に選定され、南砺市や、昨年選定された富山市とともに、様々な取組みが進められています。

当協会としても、「SDGs」の推進のため、地産地消やエシカル消費の理解促進などに努めるとともに、身近なプラスチックごみによる海洋生物への影響が社会的な問題となっていることから、今年度は「プラスチックごみ」について取り上げ調査を実施しました。

その結果、プラスチックごみ問題について改めて認識し、改善に向けた取組みを出来ることから始めようと思ったなど、多くの意見が寄せられました。この問題の解決には、消費者と企業、行政が良好なパートナーシップを形成して取り組んでいくことが何よりも重要であると考えます。

消費者市民社会では、消費者自身が明確な意思を持ち、積極的な発信者となっていくことが求められます。この調査報告書の情報が有効に活用され、持続可能な社会の発展のために、皆様方一人ひとりの日常の消費行動を変えていく一助となれば幸いです。

富山県消費生活研究グループ連絡協議会 会長 早川 泰子

昨年度は、「エシカル消費（倫理的消費）」についてアンケート調査を行いました。持続可能な社会の発展のために という流れを引き継ぎ、今年度は、環境汚染が問題となっているプラスチックごみについて調査しました。

アンケートでは、9割を超える人が「ごみのポイ捨てをしない」、「ごみを持ち帰る」など、環境汚染を避けるための行動を心がけていると回答しています。しかし、その一方で、海にプラスチックごみが大量に発生しているという現実があります。

プラスチックごみの削減策として、国は昨年よりレジ袋の有料化に着手していますが、本県では、以前よりマイバッグ持参運動を展開し、高い持参率を維持しています。これからは、プラスチックごみ問題についての認識を新たにし、「プラスチック製品を必要以上に買わない、使わない」、「使用済みプラスチックは適正に処理する」、また、「環境に配慮した行動をとる企業を応援する」などの意識を持って、日常行動を変えていくことができればと願っています。

アンケートの実施に当たっては、役員、参与団体、大学生や地域の皆様など、多数の方々のご協力をいただき、貴重なご意見をいただいたことを厚くお礼申し上げます。

目 次

I 調査の概要	
調査目的、調査時期、調査対象	-----1
II 回答者の属性	
性別、年代、職業別、世帯人数	-----1
III 調査結果の概要	
1 プラスチックについて	
(1) プラスチックに関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。	-----2
(2) プラスチックによる環境汚染に関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。	-----2
2 プラスチックと容器包装の扱いについて	
(3) プラスチックの分別回収の際、リサイクル識別表示マークを確認して出していますか。	-----4
(4) 小売店・飲食店などが提供する「プラスチックに関するサービス」に対して、どのように感じていますか	-----5
(5) 日頃、プラスチックごみの削減のために、心がけていることは何ですか。	-----9
(6) 日頃、プラスチックごみによる環境汚染を避けるために、心がけていることは何ですか。	---12
3 これからの消費者行動等について	
(7) 今後、プラスチックごみの削減のために、消費者行動をどのように変えていけばいいと思いますか。	---15
(8) 今後、プラスチックごみを削減するために、企業に望むことは何ですか。	-----16
(9) 今後、プラスチックごみを削減するために、行政に望むことは何ですか。	-----17
(10) 本アンケートを通して、プラスチックごみ削減のために、今後行動しようと思うことはありましたか。	-----18
4 参考データ	-----19
IV まとめ	-----22
V 回答者の意見	-----32
VI 調査票	-----50

プラスチックごみ問題ってなんだろう！ ～消費者ができるプラスチックごみ削減の取組み～

I 調査の概要

◆調査目的

私たちの生活は様々なプラスチック製品に支えられていますが、一方でプラスチックごみは深刻な社会問題となっています。捨てられたプラスチックごみが海へ流され、マイクロプラスチックとなって、それを魚介類が食べることで食物連鎖に取り込まれ、人体や生態系への影響が懸念されています。さらにプラスチックごみの増加によりリサイクルや焼却・埋め立て処理が追いついていないことも課題となっています。

プラスチックごみの発生を抑制するため、消費者としての私たちに何ができるか考えてみましょう。

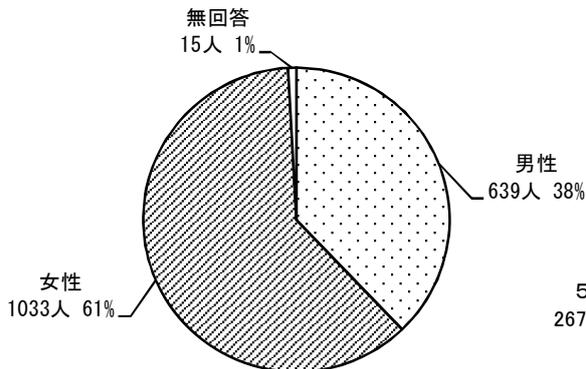
◆調査時期： 令和元年6月下旬～7月下旬

◆調査対象： 県内在住者 配布 1,910人 回答者 1,687人【回収率 88.3%】

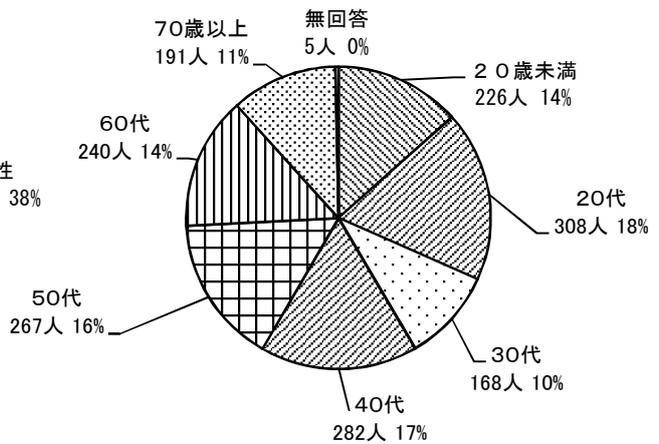
◆調査方法： 紙面調査法(自記入式)

II 回答者の属性

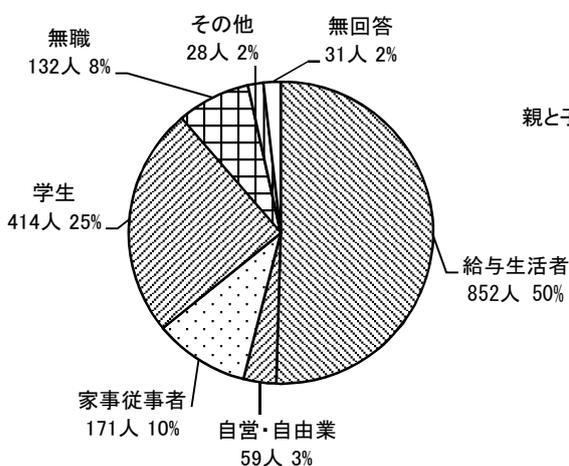
性別



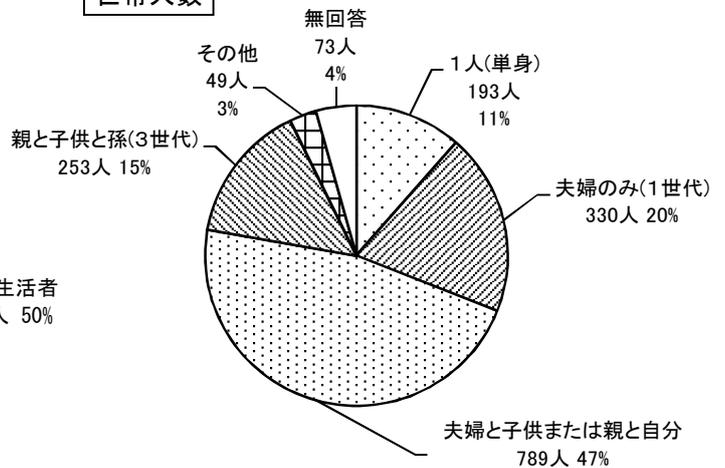
年代



職業別



世帯人数



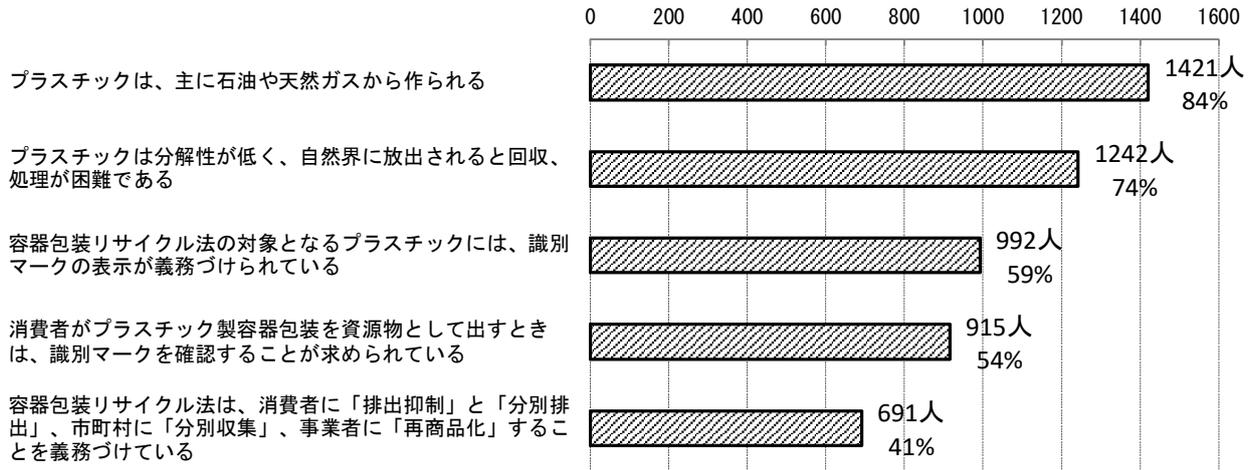
Ⅲ 調査結果の概要

1. プラスチックについて

問1 プラスチックに関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)

(1) 全体では

「プラスチックは石油や天然ガスから作られる」は84%、「分解性が低く、自然界に放出されると回収、処理が困難である」は74%が知っている。「容器包装リサイクル法の識別マークの表示義務」は59%、「資源物として出すときは、マークを確認して出すこと」は54%が知っている。



(2) 年代別・男女別では

すべての項目で、20代以下が低い傾向がある。

男女別では、「プラスチックの原料・性質」については、男性の知っている割合が高く、「容器包装リサイクル法の対象となるプラスチックへの識別マーク表示の義務づけ」、「プラスチック製容器包装を資源物として出すときの識別マークの確認」については、女性の方が高い。

年代別／男女別	人数	問1 プラスチックに関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)				
		プラスチックは、主に石油や天然ガスから作られる	プラスチックは分解性が低く、自然界に放出されると回収、処理が困難である	容器包装リサイクル法の対象となるプラスチックには、識別マークの表示が義務づけられている	消費者がプラスチック製容器包装を資源物として出すときは、識別マークを確認することが求められている	容器包装リサイクル法は、消費者に「排出抑制」と「分別排出」、市町村に「分別収集」、事業者「再商品化」することを義務づけている
20歳未満	226人	167(74%)	126(56%)	118(52%)	90(40%)	58(26%)
20代	308人	232(75%)	198(64%)	148(48%)	126(41%)	74(24%)
30代	168人	140(83%)	115(68%)	96(57%)	80(48%)	58(35%)
40代	282人	244(87%)	210(74%)	155(55%)	155(55%)	112(40%)
50代	267人	244(91%)	224(84%)	188(70%)	173(65%)	126(47%)
60代	240人	224(93%)	210(88%)	166(69%)	164(68%)	148(62%)
70歳以上	191人	168(88%)	157(82%)	119(62%)	125(65%)	113(59%)
無回答	5人	2(40%)	2(40%)	2(40%)	2(40%)	2(40%)
男	639人	558(87%)	488(76%)	349(55%)	295(46%)	266(42%)
女	1,033人	853(83%)	746(72%)	636(62%)	613(59%)	421(41%)
無回答	15人	10(67%)	8(53%)	7(47%)	7(47%)	4(27%)
全体	1,687人	1421(84%)	1242(74%)	992(59%)	915(54%)	691(41%)

※色分けについて

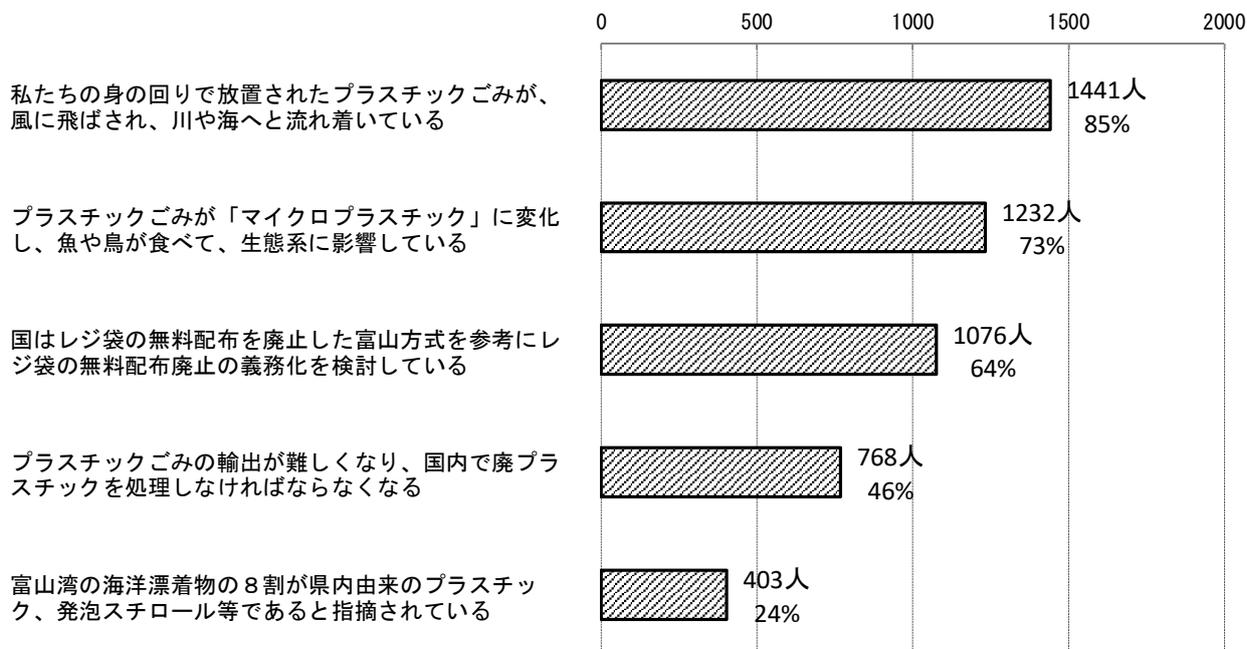
各項目について有意に高いもの(有意水準5%)を濃い灰色で、低いものを薄い灰色で表示しています。

問2 プラスチックによる環境汚染に関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)

(1) 全体では

「身の回りで放置されたプラスチックごみが川や海に流れ着いている」は85%、「マイクロプラスチックが魚・鳥を介して生態系に影響している」は73%が知っている。

一方、「富山湾の海洋漂着物の8割が県内由来のものである」は24%である。



(2) 年代別・男女別では

すべての項目で、20代以下の知っている割合が低い傾向がある。

「プラスチックごみの輸出が難しくなること」、「富山湾の海洋漂着物の8割が県内由来のプラスチックであること」については、特に40代以下の知っている割合が低く、男女別では、女性の知っている割合が低い。

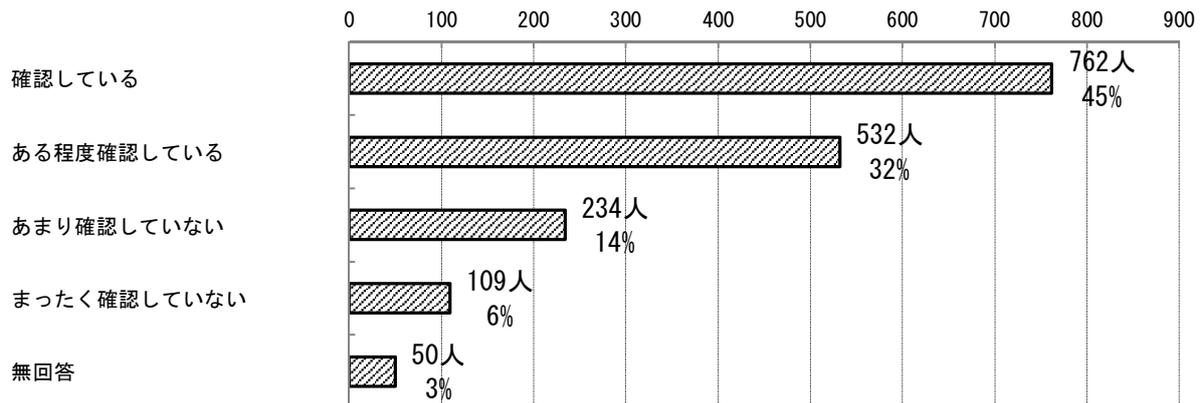
年代別 男女別	人数	プラスチックによる環境汚染に関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)				
		海が私へ、れたと風に流れて飛ばさず、着いてる川やみ	間にイシ、変化した、影響して、食べ物、ゴミ、生態系	マイクロプラスチック	富山方式	プラスチックごみの輸出が難しくなること
20歳未満	226人	189(84%)	146(65%)	105(46%)	55(24%)	26(12%)
20代	308人	239(78%)	189(61%)	152(49%)	87(28%)	57(19%)
30代	168人	143(85%)	113(67%)	103(61%)	64(38%)	34(20%)
40代	282人	254(90%)	207(73%)	181(64%)	119(42%)	54(19%)
50代	267人	242(91%)	209(78%)	196(73%)	145(54%)	74(28%)
60代	240人	210(88%)	205(85%)	192(80%)	167(70%)	78(32%)
70歳以上	191人	162(85%)	161(84%)	145(76%)	129(68%)	80(42%)
無回答	5人	2(40%)	2(40%)	2(40%)	2(40%)	0(0%)
男	639人	548(86%)	463(72%)	381(60%)	304(48%)	169(26%)
女	1,033人	883(85%)	759(73%)	688(67%)	459(44%)	232(22%)
無回答	15人	10(67%)	10(67%)	7(47%)	5(33%)	2(13%)
全体	1,687人	1441(85%)	1232(73%)	1076(64%)	768(46%)	403(24%)

2. プラスチックと容器包装の扱いについて

問3 プラスチックの分別回収の際、リサイクル識別表示マークを確認して出していますか。(1つだけ)

(1) 全体では

「確認している」45%、「ある程度確認している」32%、合わせて77%である。「あまり確認していない」、「全く確認していない」を合わせると20%である。



(2) 年代別・男女別では

年代別では、「確認している」、「ある程度確認している」を合わせると、20代以下が低い傾向がある。

男女別では、「確認している」、「ある程度確認している」を合わせると、女性は83%、男性は66%である。

	年代別 ／ 男女別	人数	問3 プラスチックの分別回収の際、リサイクル識別表示マークを確認して出していますか。(一つだけ)				
			確認している	ある程度確認している	あまり確認していない	まったく確認していない	無回答
年代別	20歳未満	226人	53(23%)	91(40%)	53(23%)	22(10%)	7(3%)
	20代	308人	84(27%)	108(35%)	70(23%)	36(12%)	10(3%)
	30代	168人	59(35%)	70(42%)	19(11%)	15(9%)	5(3%)
	40代	282人	130(46%)	91(32%)	41(15%)	15(5%)	5(2%)
	50代	267人	148(55%)	79(30%)	24(9%)	12(4%)	4(1%)
	60代	240人	159(66%)	56(23%)	16(7%)	5(2%)	4(2%)
	70歳以上	191人	127(66%)	37(19%)	11(6%)	4(2%)	12(6%)
	無回答	5人	2(40%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	3(60%)
男女別	男	639人	232(36%)	193(30%)	106(17%)	81(13%)	27(4%)
	女	1,033人	523(51%)	335(32%)	128(12%)	27(3%)	20(2%)
	無回答	15人	7(47%)	4(27%)	0(0%)	1(7%)	3(20%)
	全体	1,687人	762(45%)	532(32%)	234(14%)	109(6%)	50(3%)

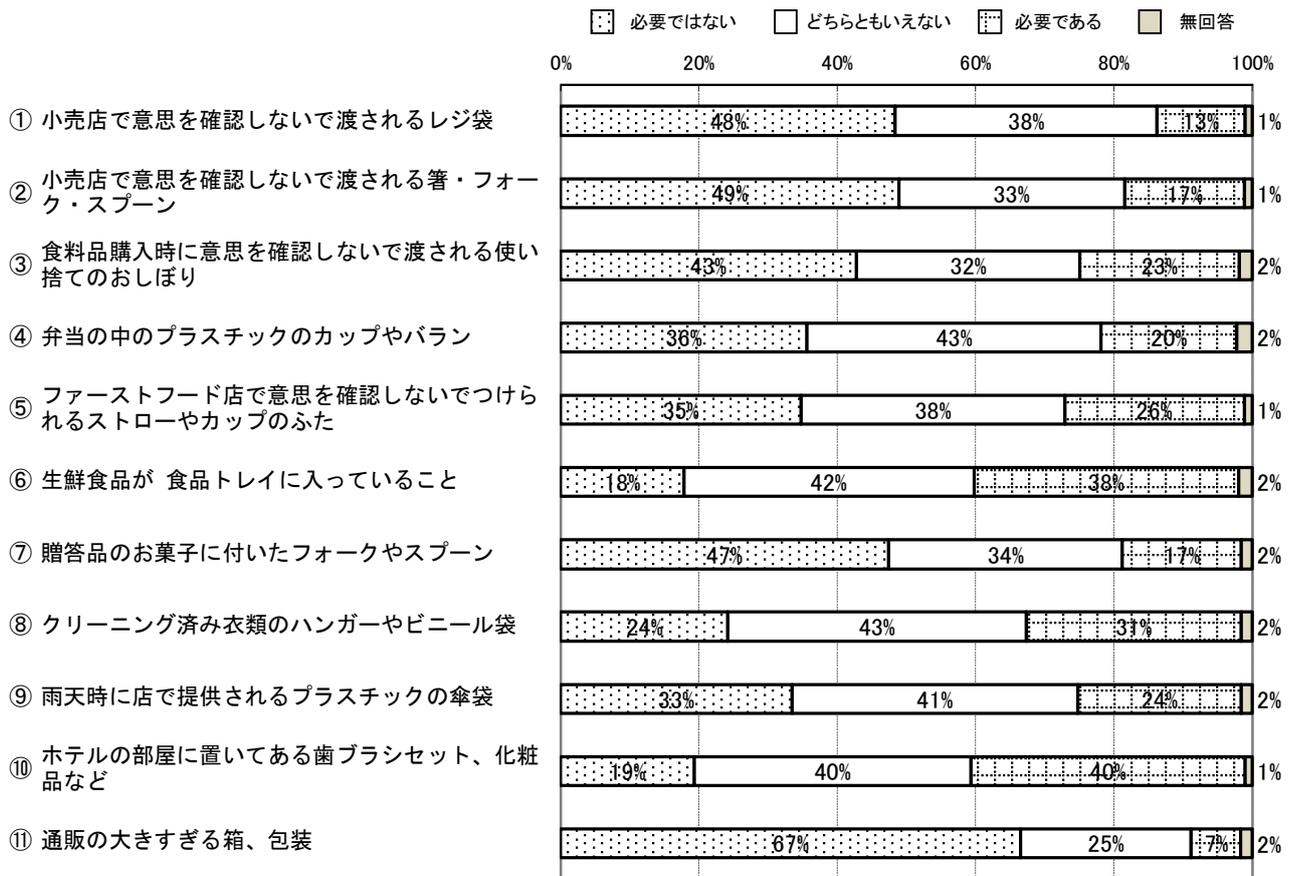
問4 小売店・飲食店などが提供する「プラスチックに関するサービス」に対して、どのように感じていますか。

(1) 全体では

「必要でない」が多いのは、「⑪通販の大きすぎる箱、包装」67%、「②小売店で意思を確認しないで渡される箸、フォークなど」49%、「①レジ袋」48%、「⑦贈答品に付いたフォークやスプーン」47%である。

一方、「必要である」が多いのは、「⑩ホテルに置いてある歯ブラシセットなど」40%、「⑥生鮮食品の食品トレイ」38%である。

また、「どちらともいえない」が多いのは、「④弁当の中のプラスチックのカップやバラ」43%、「⑧クリーニングのハンガーやビニール袋」43%、「⑥生鮮食品の食品トレイ」42%である。



(2) 年代別・男女別では

「必要ではない」とする割合を年代別、男女別にみると、「⑪通販の大きすぎる箱、包装」は、女性が高い。

「②小売店で意思を確認しないで渡される箸、フォークなど」は、50代・60代高く、「①レジ袋」は、60代が高く「⑦贈答品に付いたフォークやスプーン」は、60代以上と女性が高い。

一方、「必要である」とする割合を年代別にみると、「⑩ホテルに置いてある歯ブラシセットなど」と、「⑥生鮮食品の食品トレイ」は、20代以下が高い。

	年代別／男女別	人数	問4① 小売店などで、消費者の意思を確認しないで渡されるレジ袋				問4② 小売店などで、消費者の意思を確認しないで渡される箸・フォーク・スプーン			
			い必要ではな	いどえちならとも	必要である	無回答	い必要ではな	いどえちならとも	必要である	無回答
年代別	20歳未満	226人	99(44%)	86(38%)	41(18%)	0(0%)	78(35%)	82(36%)	65(29%)	1(0%)
	20代	308人	108(35%)	136(44%)	62(20%)	2(1%)	107(35%)	106(34%)	94(31%)	1(0%)
	30代	168人	81(48%)	64(38%)	21(12%)	2(1%)	84(50%)	59(35%)	23(14%)	2(1%)
	40代	282人	141(50%)	114(40%)	27(10%)	0(0%)	148(52%)	99(35%)	34(12%)	1(0%)
	50代	267人	141(53%)	105(39%)	18(7%)	3(1%)	162(61%)	77(29%)	25(9%)	3(1%)
	60代	240人	143(60%)	76(32%)	19(8%)	2(1%)	144(60%)	68(28%)	26(11%)	2(1%)
	70歳以上	191人	101(53%)	55(29%)	27(14%)	8(4%)	99(52%)	58(30%)	26(14%)	8(4%)
	無回答	5人	2(40%)	2(40%)	0(0%)	1(20%)	2(40%)	2(40%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	297(46%)	243(38%)	92(14%)	7(1%)	290(45%)	213(33%)	126(20%)	10(2%)
	女	1,033人	512(50%)	389(38%)	122(12%)	10(1%)	528(51%)	331(32%)	166(16%)	8(1%)
	無回答	15人	7(47%)	6(40%)	1(7%)	1(7%)	6(40%)	7(47%)	1(7%)	1(7%)
	全体	1,687人	816(48%)	638(38%)	215(13%)	18(1%)	824(49%)	551(33%)	293(17%)	19(1%)

	年代別／男女別	人数	問4③ 食料品購入時に、消費者の意思を確認しないで渡される使い捨てのおしぼり				問4④ 販売されている弁当容器などの中のプラスチック製のカップやバラン(仕切り)			
			い必要ではな	いどえちならとも	必要である	無回答	い必要ではな	いどえちならとも	必要である	無回答
年代別	20歳未満	226人	71(31%)	62(27%)	91(40%)	2(1%)	67(30%)	86(38%)	70(31%)	3(1%)
	20代	308人	81(26%)	104(34%)	120(39%)	3(1%)	102(33%)	122(40%)	78(25%)	6(2%)
	30代	168人	77(46%)	58(35%)	31(18%)	2(1%)	69(41%)	65(39%)	30(18%)	4(2%)
	40代	282人	135(48%)	101(36%)	43(15%)	3(1%)	103(37%)	129(46%)	49(17%)	1(0%)
	50代	267人	134(50%)	88(33%)	38(14%)	7(3%)	96(36%)	126(47%)	37(14%)	8(3%)
	60代	240人	115(48%)	85(35%)	37(15%)	3(1%)	95(40%)	105(44%)	35(15%)	5(2%)
	70歳以上	191人	105(55%)	47(25%)	28(15%)	11(6%)	68(36%)	82(43%)	31(16%)	10(5%)
	無回答	5人	3(60%)	0(0%)	1(20%)	1(20%)	1(20%)	2(40%)	1(20%)	1(20%)
男女別	男	639人	265(41%)	210(33%)	152(24%)	12(2%)	226(35%)	264(41%)	131(21%)	18(3%)
	女	1,033人	451(44%)	329(32%)	235(23%)	18(2%)	371(36%)	444(43%)	200(19%)	18(2%)
	無回答	15人	5(33%)	6(40%)	2(13%)	2(13%)	4(27%)	9(60%)	0(0%)	2(13%)
	全体	1,687人	721(43%)	545(32%)	389(23%)	32(2%)	601(36%)	717(43%)	331(20%)	38(2%)

	年代別／男女別	人数	問4⑤ ファーストフード店などで、消費者の意思を確認しないでつけられる ストローやカップのふた				問4⑥ 生鮮食品が 食品トレイに入っていること			
			い必要ではな	いどえちならいとも	必要である	無回答	い必要ではな	いどえちならいとも	必要である	無回答
年代別	20歳未満	226人	57(25%)	75(33%)	94(42%)	0(0%)	32(14%)	72(32%)	120(53%)	2(1%)
	20代	308人	63(20%)	112(36%)	130(42%)	3(1%)	37(12%)	132(43%)	132(43%)	7(2%)
	30代	168人	52(31%)	61(36%)	52(31%)	3(2%)	36(21%)	67(40%)	63(38%)	2(1%)
	40代	282人	94(33%)	124(44%)	64(23%)	0(0%)	53(19%)	120(43%)	104(37%)	5(2%)
	50代	267人	109(41%)	111(42%)	44(16%)	3(1%)	64(24%)	116(43%)	84(31%)	3(1%)
	60代	240人	116(48%)	94(39%)	29(12%)	1(0%)	44(18%)	111(46%)	81(34%)	4(2%)
	70歳以上	191人	93(49%)	64(34%)	25(13%)	9(5%)	34(18%)	87(46%)	61(32%)	9(5%)
	無回答	5人	2(40%)	2(40%)	0(0%)	1(20%)	0(0%)	3(60%)	0(0%)	2(40%)
男女別	男	639人	207(32%)	235(37%)	184(29%)	13(2%)	120(19%)	260(41%)	243(38%)	16(3%)
	女	1,033人	376(36%)	399(39%)	252(24%)	6(1%)	178(17%)	440(43%)	400(39%)	15(1%)
	無回答	15人	3(20%)	9(60%)	2(13%)	1(7%)	2(13%)	8(53%)	2(13%)	3(20%)
	全体	1,687人	586(35%)	643(38%)	438(26%)	20(1%)	300(18%)	708(42%)	645(38%)	34(2%)

	年代別／男女別	人数	問4⑦ 贈答品のお菓子に入っているフォークやスプーン				問4⑧ クリーニング店で、クリーニング済みの衣類等につけられる ハンガーやビニール袋			
			い必要ではな	いどえちならいとも	必要である	無回答	い必要ではな	いどえちならいとも	必要である	無回答
年代別	20歳未満	226人	97(43%)	69(31%)	60(27%)	0(0%)	44(19%)	83(37%)	98(43%)	1(0%)
	20代	308人	106(34%)	113(37%)	86(28%)	3(1%)	70(23%)	115(37%)	119(39%)	4(1%)
	30代	168人	74(44%)	61(36%)	30(18%)	3(2%)	47(28%)	68(40%)	51(30%)	2(1%)
	40代	282人	141(50%)	100(35%)	39(14%)	2(1%)	72(26%)	132(47%)	78(28%)	0(0%)
	50代	267人	127(48%)	102(38%)	34(13%)	4(1%)	52(19%)	131(49%)	81(30%)	3(1%)
	60代	240人	137(57%)	75(31%)	24(10%)	4(2%)	59(25%)	114(48%)	62(26%)	5(2%)
	70歳以上	191人	117(61%)	48(25%)	17(9%)	9(5%)	64(34%)	84(44%)	32(17%)	11(6%)
	無回答	5人	1(20%)	2(40%)	0(0%)	2(40%)	0(0%)	1(20%)	3(60%)	1(20%)
男女別	男	639人	258(40%)	218(34%)	152(24%)	11(2%)	134(21%)	267(42%)	225(35%)	13(2%)
	女	1,033人	538(52%)	345(33%)	138(13%)	12(1%)	268(26%)	456(44%)	296(29%)	13(1%)
	無回答	15人	4(27%)	7(47%)	0(0%)	4(27%)	6(40%)	5(33%)	3(20%)	1(7%)
	全体	1,687人	800(47%)	570(34%)	290(17%)	27(2%)	408(24%)	728(43%)	524(31%)	27(2%)

	年代別／男女別	人数	問4⑨ 雨天時に、商店などの入り口で提供されるプラスチック製の傘袋				問4⑩ ホテル、旅館などで、部屋に置いてある無料のアメニティグッズ(歯ブラシセット、化粧品など)			
			い必要ではな	いどえちならいとも	必要である	無回答	い必要ではな	いどえちならいとも	必要である	無回答
年代別	20歳未満	226人	71(31%)	82(36%)	71(31%)	2(1%)	28(12%)	67(30%)	129(57%)	2(1%)
	20代	308人	87(28%)	119(39%)	99(32%)	3(1%)	35(11%)	100(32%)	171(56%)	2(1%)
	30代	168人	72(43%)	59(35%)	35(21%)	2(1%)	31(18%)	65(39%)	70(42%)	2(1%)
	40代	282人	86(30%)	136(48%)	57(20%)	3(1%)	64(23%)	129(46%)	89(32%)	0(0%)
	50代	267人	96(36%)	122(46%)	46(17%)	3(1%)	58(22%)	124(46%)	83(31%)	2(1%)
	60代	240人	77(32%)	105(44%)	56(23%)	2(1%)	58(24%)	103(43%)	78(32%)	1(0%)
	70歳以上	191人	75(39%)	72(38%)	33(17%)	11(6%)	52(27%)	84(44%)	47(25%)	8(4%)
	無回答	5人	0(0%)	2(40%)	2(40%)	1(20%)	0(0%)	2(40%)	2(40%)	1(20%)
男女別	男	639人	233(36%)	246(38%)	149(23%)	11(2%)	118(18%)	258(40%)	254(40%)	9(1%)
	女	1,033人	327(32%)	442(43%)	249(24%)	15(1%)	206(20%)	408(39%)	411(40%)	8(1%)
	無回答	15人	4(27%)	9(60%)	1(7%)	1(7%)	2(13%)	8(53%)	4(27%)	1(7%)
	全体	1,687人	564(33%)	697(41%)	399(24%)	27(2%)	326(19%)	674(40%)	669(40%)	18(1%)

	年代別／男女別	人数	問4⑪ 通販などで購入した際に、商品よりもかなり大きな箱、包装で配送されること			
			い必要ではな	いどえちならいとも	必要である	無回答
年代別	20歳未満	226人	139(62%)	53(23%)	30(13%)	4(2%)
	20代	308人	173(56%)	88(29%)	42(14%)	5(2%)
	30代	168人	118(70%)	37(22%)	7(4%)	6(4%)
	40代	282人	202(72%)	68(24%)	10(4%)	2(1%)
	50代	267人	176(66%)	75(28%)	13(5%)	3(1%)
	60代	240人	175(73%)	55(23%)	8(3%)	2(1%)
	70歳以上	191人	137(72%)	38(20%)	10(5%)	6(3%)
	無回答	5人	2(40%)	2(40%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	352(55%)	210(33%)	63(10%)	14(2%)
	女	1,033人	763(74%)	201(19%)	55(5%)	14(1%)
	無回答	15人	7(47%)	5(33%)	2(13%)	1(7%)
	全体	1,687人	1122(67%)	416(25%)	120(7%)	29(2%)

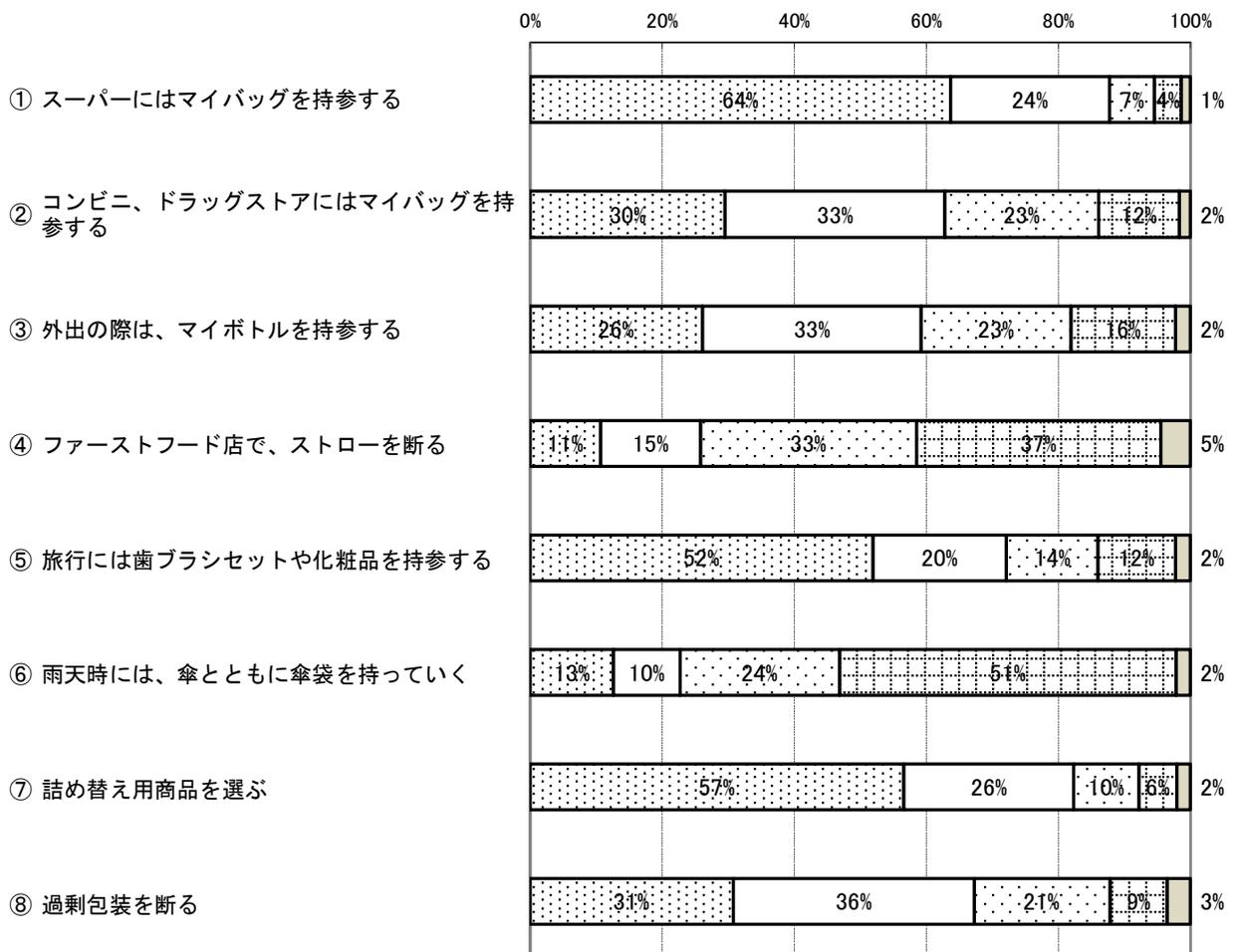
問5 日頃、プラスチックごみの削減のために、心がけていることは何ですか。

(1)全体では

「いつも心がけている」、「たまに心がけている」を合わせて多いのは、「①スーパーにはマイバッグを持参する」88%、次いで「⑦詰め替え用商品を選ぶ」83%である。

一方、「全く心がけていない」が多いのは、「⑥雨天時に傘とともに傘袋を持っていく」51%、「④ファーストフード店などでストローを断る」37%である。

いつも心がけている
 たまに心がけている
 あまり心がけていない
 全く心がけていない
 無回答



(2) 年代別・男女別では

「いつも心がけている」、「たまに心がけている」を合わせた割合を男女別にみると、「④ファーストフード店でストローを断る」と「⑥雨天時に傘とともに傘袋を持っていく」以外の項目については、女性が男性より15ポイントから26ポイント高い。

一方、「全く心がけていない」が多い「⑥雨天時に傘とともに傘袋を持っていく」については、30代から50代の割合が高く、「④ファーストフード店などでストローを断る」は、30代以下の割合が高い。

年代別 ／ 男女別	人数	問5① スーパーでの買い物には、マイバッグを持参し、レジ袋を断る					問5② コンビニ、ドラッグストアなどの買い物には、マイバッグを持参し、レジ袋を断る					
		けい てつ いも る心 が	け た てま いに る心 が	け あ てま いり ない 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	けい てつ いも る心 が	け た てま いに る心 が	け あ てま いり ない 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	95(42%)	86(38%)	25(11%)	19(8%)	1(0%)	39(17%)	69(31%)	67(30%)	51(23%)	0(0%)
	20代	308人	96(31%)	130(42%)	51(17%)	25(8%)	6(2%)	39(13%)	94(31%)	106(34%)	63(20%)	6(2%)
	30代	168人	111(66%)	43(26%)	5(3%)	8(5%)	1(1%)	53(32%)	62(37%)	32(19%)	19(11%)	2(1%)
	40代	282人	205(73%)	50(18%)	19(7%)	7(2%)	1(0%)	84(30%)	105(37%)	64(23%)	27(10%)	2(1%)
	50代	267人	210(79%)	45(17%)	5(2%)	4(1%)	3(1%)	91(34%)	97(36%)	59(22%)	17(6%)	3(1%)
	60代	240人	197(82%)	33(14%)	6(2%)	1(0%)	3(1%)	97(40%)	81(34%)	40(17%)	19(8%)	3(1%)
	70歳以上	191人	156(82%)	19(10%)	4(2%)	4(2%)	8(4%)	94(49%)	52(27%)	23(12%)	11(6%)	11(6%)
	無回答	5人	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	1(20%)	2(40%)	1(20%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	298(47%)	199(31%)	80(13%)	54(8%)	8(1%)	146(23%)	179(28%)	176(28%)	130(20%)	8(1%)
	女	1,033人	764(74%)	206(20%)	35(3%)	13(1%)	15(1%)	348(34%)	375(36%)	215(21%)	76(7%)	19(2%)
	無回答	15人	12(80%)	1(7%)	0(0%)	1(7%)	1(7%)	4(27%)	8(53%)	1(7%)	1(7%)	1(7%)
	全体	1,687人	1074(64%)	406(24%)	115(7%)	68(4%)	24(1%)	498(30%)	562(33%)	392(23%)	207(12%)	28(2%)

年代別 ／ 男女別	人数	問5③ 外出の際は、マイボトルを持参する					問5④ ファーストフード店などで、ストローを断る					
		けい てつ いも る心 が	け た てま いに る心 が	け あ てま いり ない 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	けい てつ いも る心 が	け た てま いに る心 が	け あ てま いり ない 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	42(19%)	85(38%)	55(24%)	43(19%)	1(0%)	15(7%)	27(12%)	73(32%)	108(48%)	3(1%)
	20代	308人	57(19%)	76(25%)	92(30%)	77(25%)	6(2%)	18(6%)	28(9%)	102(33%)	150(49%)	10(3%)
	30代	168人	52(31%)	50(30%)	36(21%)	28(17%)	2(1%)	7(4%)	18(11%)	47(28%)	93(55%)	3(2%)
	40代	282人	64(23%)	120(43%)	62(22%)	34(12%)	2(1%)	26(9%)	31(11%)	104(37%)	115(41%)	6(2%)
	50代	267人	64(24%)	93(35%)	66(25%)	40(15%)	4(1%)	24(9%)	43(16%)	93(35%)	96(36%)	11(4%)
	60代	240人	83(35%)	81(34%)	45(19%)	27(11%)	4(2%)	46(19%)	62(26%)	74(31%)	44(18%)	14(6%)
	70歳以上	191人	76(40%)	52(27%)	27(14%)	18(9%)	18(9%)	42(22%)	46(24%)	57(30%)	18(9%)	28(15%)
	無回答	5人	3(60%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	2(40%)	1(20%)	1(20%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	106(17%)	169(26%)	177(28%)	174(27%)	13(2%)	59(9%)	85(13%)	193(30%)	280(44%)	22(3%)
	女	1,033人	331(32%)	380(37%)	205(20%)	93(9%)	24(2%)	119(12%)	167(16%)	353(34%)	341(33%)	53(5%)
	無回答	15人	4(27%)	9(60%)	1(7%)	0(0%)	1(7%)	2(13%)	4(27%)	5(33%)	3(20%)	1(7%)
	全体	1,687人	441(26%)	558(33%)	383(23%)	267(16%)	38(2%)	180(11%)	256(15%)	551(33%)	624(37%)	76(5%)

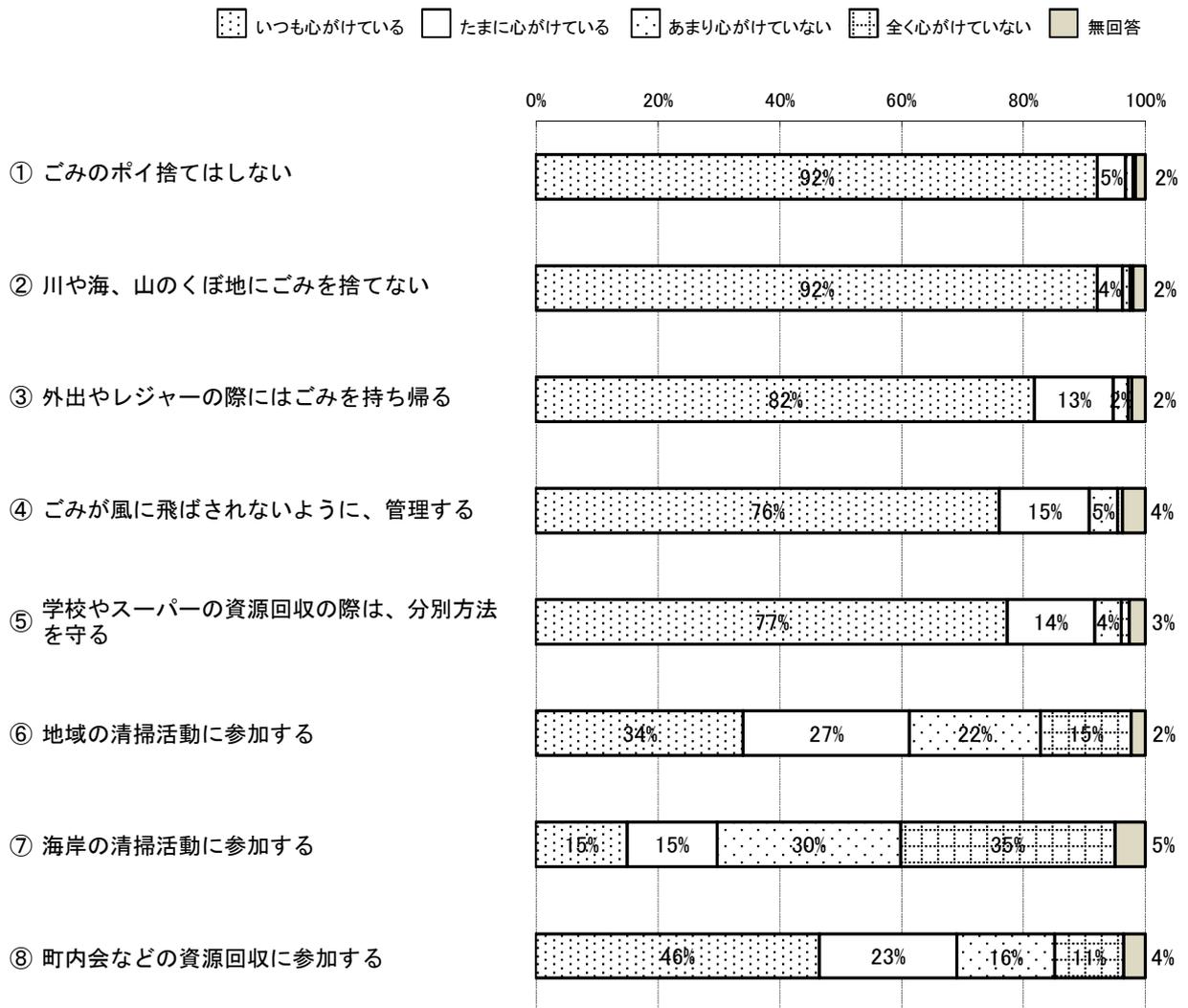
年代別 ／ 男女別	人数	問5⑤ 旅行や出張に出かける際は、自分の歯ブラシセットや化粧品などを持っていく					問5⑥ 雨天時には、傘とともに傘袋を持っていく					
		けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 い が	て 全 い く な 心 い が け	無 回 答	けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 い が	て 全 い く な 心 い が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	120(53%)	53(23%)	28(12%)	24(11%)	1(0%)	30(13%)	37(16%)	48(21%)	109(48%)	2(1%)
	20代	308人	132(43%)	77(25%)	47(15%)	44(14%)	8(3%)	44(14%)	31(10%)	80(26%)	145(47%)	8(3%)
	30代	168人	76(45%)	38(23%)	23(14%)	29(17%)	2(1%)	8(5%)	10(6%)	29(17%)	119(71%)	2(1%)
	40代	282人	136(48%)	56(20%)	52(18%)	36(13%)	2(1%)	27(10%)	18(6%)	58(21%)	178(63%)	1(0%)
	50代	267人	145(54%)	50(19%)	41(15%)	28(10%)	3(1%)	24(9%)	17(6%)	61(23%)	161(60%)	4(1%)
	60代	240人	142(59%)	46(19%)	26(11%)	19(8%)	7(3%)	32(13%)	28(12%)	78(32%)	98(41%)	4(2%)
	70歳以上	191人	124(65%)	20(10%)	16(8%)	16(8%)	15(8%)	45(24%)	29(15%)	54(28%)	48(25%)	15(8%)
	無回答	5人	1(20%)	1(20%)	1(20%)	1(20%)	1(20%)	2(40%)	1(20%)	0(0%)	1(20%)	1(20%)
男女別	男	639人	239(37%)	153(24%)	112(18%)	123(19%)	12(2%)	85(13%)	67(10%)	134(21%)	340(53%)	13(2%)
	女	1,033人	629(61%)	186(18%)	121(12%)	71(7%)	26(3%)	124(12%)	101(10%)	270(26%)	515(50%)	23(2%)
	無回答	15人	8(53%)	2(13%)	1(7%)	3(20%)	1(7%)	3(20%)	3(20%)	4(27%)	4(27%)	1(7%)
	全体	1,687人	876(52%)	341(20%)	234(14%)	197(12%)	39(2%)	212(13%)	171(10%)	408(24%)	859(51%)	37(2%)

年代別 ／ 男女別	人数	問5⑦ 詰め替え用商品を選ぶ					問5⑧ 過剰包装を断る					
		けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 い が	て 全 い く な 心 い が け	無 回 答	けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 い が	て 全 い く な 心 い が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	116(51%)	60(27%)	33(15%)	16(7%)	1(0%)	53(23%)	76(34%)	65(29%)	27(12%)	5(2%)
	20代	308人	139(45%)	86(28%)	51(17%)	25(8%)	7(2%)	67(22%)	93(30%)	92(30%)	47(15%)	9(3%)
	30代	168人	103(61%)	40(24%)	9(5%)	13(8%)	3(2%)	57(34%)	64(38%)	27(16%)	18(11%)	2(1%)
	40代	282人	185(66%)	72(26%)	15(5%)	9(3%)	1(0%)	89(32%)	116(41%)	59(21%)	17(6%)	1(0%)
	50代	267人	165(62%)	68(25%)	15(6%)	16(6%)	3(1%)	82(31%)	109(41%)	46(17%)	22(8%)	8(3%)
	60代	240人	148(62%)	58(24%)	23(10%)	6(2%)	5(2%)	94(39%)	94(39%)	36(15%)	4(2%)	12(5%)
	70歳以上	191人	96(50%)	49(26%)	20(10%)	12(6%)	14(7%)	76(40%)	60(31%)	22(12%)	12(6%)	21(11%)
	無回答	5人	3(60%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	1(20%)	3(60%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	281(44%)	186(29%)	95(15%)	64(10%)	13(2%)	148(23%)	196(31%)	187(29%)	84(13%)	24(4%)
	女	1,033人	664(64%)	245(24%)	70(7%)	33(3%)	21(2%)	363(35%)	413(40%)	160(15%)	63(6%)	34(3%)
	無回答	15人	10(67%)	3(20%)	1(7%)	0(0%)	1(7%)	8(53%)	6(40%)	0(0%)	0(0%)	1(7%)
	全体	1,687人	955(57%)	434(26%)	166(10%)	97(6%)	35(2%)	519(31%)	615(36%)	347(21%)	147(9%)	59(3%)

問6 日頃、プラスチックごみによる環境汚染を避けるために、心がけていることは何ですか。

(1)全体では

「いつも心がけている」、「たまに心がけている」を合わせて多いのは、「①ゴミのポイ捨てはしない」97%、「②川や海、山のくぼ地などにゴミを捨てない」96%である。
一方、「⑦海岸の清掃活動に参加する」は30%である。



(2)年代別・男女別では

「いつも心がけている」「たまに心がけている」を合わせて多い「①ごみのポイ捨てはしない」、「②川や海、山のくぼ地などにごみを捨てない」について年代別にみると、30代以上が高い傾向がある。

一方、「いつも心がけている」、「たまに心がけている」を合わせて最も少ない「⑦海岸の清掃活動に参加する」については、40代・50代と男性は、参加するよう心がけている割合が高い傾向がある。

年代別／男女別	人数	問6① ごみのポイ捨てはしない					問6② 川や海、山のくぼ地などにごみを捨てない					
		けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	186(82%)	30(13%)	5(2%)	4(2%)	1(0%)	191(85%)	21(9%)	9(4%)	4(2%)	1(0%)
	20代	308人	261(85%)	25(8%)	12(4%)	3(1%)	7(2%)	267(87%)	24(8%)	8(3%)	2(1%)	7(2%)
	30代	168人	156(93%)	9(5%)	1(1%)	0(0%)	2(1%)	156(93%)	9(5%)	1(1%)	0(0%)	2(1%)
	40代	282人	279(99%)	3(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	276(98%)	4(1%)	1(0%)	0(0%)	1(0%)
	50代	267人	261(98%)	2(1%)	1(0%)	0(0%)	3(1%)	259(97%)	3(1%)	1(0%)	0(0%)	4(1%)
	60代	240人	231(96%)	5(2%)	0(0%)	0(0%)	4(2%)	232(97%)	2(1%)	0(0%)	1(0%)	5(2%)
	70歳以上	191人	176(92%)	4(2%)	1(1%)	0(0%)	10(5%)	169(88%)	7(4%)	0(0%)	1(1%)	14(7%)
	無回答	5人	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	560(88%)	51(8%)	14(2%)	6(1%)	8(1%)	568(89%)	40(6%)	15(2%)	7(1%)	9(1%)
	女	1,033人	982(95%)	25(2%)	6(1%)	1(0%)	19(2%)	973(94%)	29(3%)	5(0%)	1(0%)	25(2%)
	無回答	15人	12(80%)	2(13%)	0(0%)	0(0%)	1(7%)	13(87%)	1(7%)	0(0%)	0(0%)	1(7%)
	全体	1,687人	1554(92%)	78(5%)	20(1%)	7(0%)	28(2%)	1554(92%)	70(4%)	20(1%)	8(0%)	35(2%)

年代別／男女別	人数	問6③ 外出やレジャーの際にはごみを持ち帰る					問6④ ごみが風に飛ばされないように、管理する					
		けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	けい てつ も る 心 が	け た て ま い に る 心 が	け あ て ま い り な 心 が	て 全 い く な 心 が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	179(79%)	32(14%)	9(4%)	5(2%)	1(0%)	161(71%)	43(19%)	15(7%)	4(2%)	3(1%)
	20代	308人	247(80%)	37(12%)	14(5%)	2(1%)	8(3%)	206(67%)	56(18%)	26(8%)	8(3%)	12(4%)
	30代	168人	145(86%)	18(11%)	3(2%)	0(0%)	2(1%)	124(74%)	28(17%)	12(7%)	1(1%)	3(2%)
	40代	282人	237(84%)	39(14%)	4(1%)	0(0%)	2(1%)	229(81%)	35(12%)	12(4%)	1(0%)	5(2%)
	50代	267人	215(81%)	42(16%)	4(1%)	2(1%)	4(1%)	219(82%)	36(13%)	5(2%)	0(0%)	7(3%)
	60代	240人	197(82%)	32(13%)	6(2%)	0(0%)	5(2%)	191(80%)	34(14%)	4(2%)	0(0%)	11(5%)
	70歳以上	191人	155(81%)	19(10%)	1(1%)	1(1%)	15(8%)	148(77%)	18(9%)	3(2%)	1(1%)	21(11%)
	無回答	5人	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	504(79%)	95(15%)	22(3%)	8(1%)	10(2%)	469(73%)	106(17%)	38(6%)	9(1%)	17(3%)
	女	1,033人	864(84%)	121(12%)	19(2%)	2(0%)	27(3%)	803(78%)	143(14%)	38(4%)	6(1%)	43(4%)
	無回答	15人	11(73%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)	1(7%)	10(67%)	1(7%)	1(7%)	0(0%)	3(20%)
	全体	1,687人	1379(82%)	219(13%)	41(2%)	10(1%)	38(2%)	1282(76%)	250(15%)	77(5%)	15(1%)	63(4%)

年代別 ／ 男女別	人数	問6⑤ 学校やスーパーなどで行われている資源回収の際は、分別方法を守る					問6⑥ 地域の清掃活動に参加する					
		けいてつ もる心 が	けた てま いに る心 が	けあ てま いり ない 心 が	て全 い く な 心 い が け	無 回 答	けいてつ もる心 が	けた てま いに る心 が	けあ てま いり ない 心 が	て全 い く な 心 い が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	148(65%)	58(26%)	13(6%)	5(2%)	2(1%)	30(13%)	51(23%)	85(38%)	58(26%)	2(1%)
	20代	308人	181(59%)	71(23%)	38(12%)	9(3%)	9(3%)	32(10%)	63(20%)	102(33%)	104(34%)	7(2%)
	30代	168人	121(72%)	27(16%)	11(7%)	6(4%)	3(2%)	41(24%)	46(27%)	40(24%)	36(21%)	5(3%)
	40代	282人	247(88%)	27(10%)	7(2%)	0(0%)	1(0%)	114(40%)	95(34%)	55(20%)	17(6%)	1(0%)
	50代	267人	231(87%)	26(10%)	5(2%)	0(0%)	5(2%)	126(47%)	78(29%)	42(16%)	16(6%)	5(2%)
	60代	240人	215(90%)	18(8%)	0(0%)	1(0%)	6(2%)	123(51%)	80(33%)	23(10%)	10(4%)	4(2%)
	70歳以上	191人	157(82%)	15(8%)	0(0%)	1(1%)	18(9%)	105(55%)	46(24%)	16(8%)	9(5%)	15(8%)
	無回答	5人	4(80%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)	3(60%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	447(70%)	119(19%)	42(7%)	17(3%)	14(2%)	232(36%)	167(26%)	123(19%)	107(17%)	10(2%)
	女	1,033人	846(82%)	121(12%)	31(3%)	5(0%)	30(3%)	336(33%)	290(28%)	239(23%)	139(13%)	29(3%)
	無回答	15人	11(73%)	2(13%)	1(7%)	0(0%)	1(7%)	6(40%)	3(20%)	1(7%)	4(27%)	1(7%)
	全体	1,687人	1304(77%)	242(14%)	74(4%)	22(1%)	45(3%)	574(34%)	460(27%)	363(22%)	250(15%)	40(2%)

年代別 ／ 男女別	人数	問6⑦ 海岸の清掃活動に参加する					問6⑧ 町内会など地域ぐるみで実施している資源ごみの分別回収に参加する					
		けいてつ もる心 が	けた てま いに る心 が	けあ てま いり ない 心 が	て全 い く な 心 い が け	無 回 答	けいてつ もる心 が	けた てま いに る心 が	けあ てま いり ない 心 が	て全 い く な 心 い が け	無 回 答	
年代別	20歳未満	226人	18(8%)	36(16%)	82(36%)	88(39%)	2(1%)	45(20%)	61(27%)	70(31%)	48(21%)	2(1%)
	20代	308人	27(9%)	52(17%)	94(31%)	127(41%)	8(3%)	60(19%)	69(22%)	85(28%)	83(27%)	11(4%)
	30代	168人	30(18%)	22(13%)	52(31%)	59(35%)	5(3%)	61(36%)	47(28%)	31(18%)	22(13%)	7(4%)
	40代	282人	55(20%)	42(15%)	79(28%)	103(37%)	3(1%)	160(57%)	73(26%)	34(12%)	13(5%)	2(1%)
	50代	267人	55(21%)	41(15%)	80(30%)	81(30%)	10(4%)	158(59%)	64(24%)	25(9%)	12(4%)	8(3%)
	60代	240人	41(17%)	37(15%)	74(31%)	72(30%)	16(7%)	171(71%)	39(16%)	16(7%)	5(2%)	9(4%)
	70歳以上	191人	25(13%)	19(10%)	45(24%)	63(33%)	39(20%)	126(66%)	28(15%)	8(4%)	8(4%)	21(11%)
	無回答	5人	1(20%)	0(0%)	2(40%)	1(20%)	1(20%)	3(60%)	0(0%)	1(20%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	138(22%)	105(16%)	178(28%)	202(32%)	16(3%)	278(44%)	152(24%)	106(17%)	86(13%)	17(3%)
	女	1,033人	112(11%)	141(14%)	326(32%)	387(37%)	67(6%)	498(48%)	226(22%)	163(16%)	103(10%)	43(4%)
	無回答	15人	2(13%)	3(20%)	4(27%)	5(33%)	1(7%)	8(53%)	3(20%)	1(7%)	2(13%)	1(7%)
	全体	1,687人	252(15%)	249(15%)	508(30%)	594(35%)	84(5%)	784(46%)	381(23%)	270(16%)	191(11%)	61(4%)

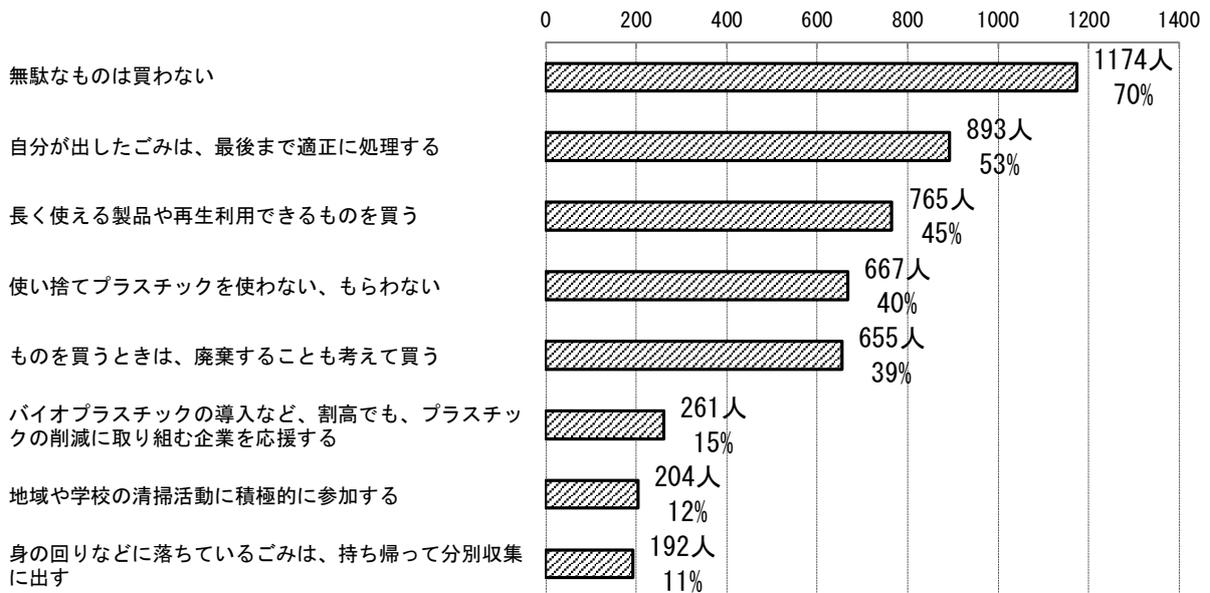
3. これからの消費者行動等について

問7 今後、プラスチックごみの削減のために、消費者行動をどのように変えていけばいいと思いますか。(3つまで)

(1) 全体では

「無駄なものを買わない」70%、「自分が出したごみは最後まで適正に処理する」53%、「長く使える製品を買う」45%、「使い捨てプラスチックをもらわない」40%である。

一方、「身の回りに落ちているごみは拾って持ち帰る」は11%である。



(2) 年代別・男女別では

「無駄になる物を買わない」は30代が高く、「自分が出したごみは、適正に処理する」は60代以上が高く、「バイオプラスチックの導入など、割高でもプラスチックの削減に取り組む企業を応援する」は50代以上が高い。「長く使える製品や再生利用できるものを買う」は20代以下が高く、「身の回りに落ちているごみは持ち帰る」は20代以下と70歳以上が高い。

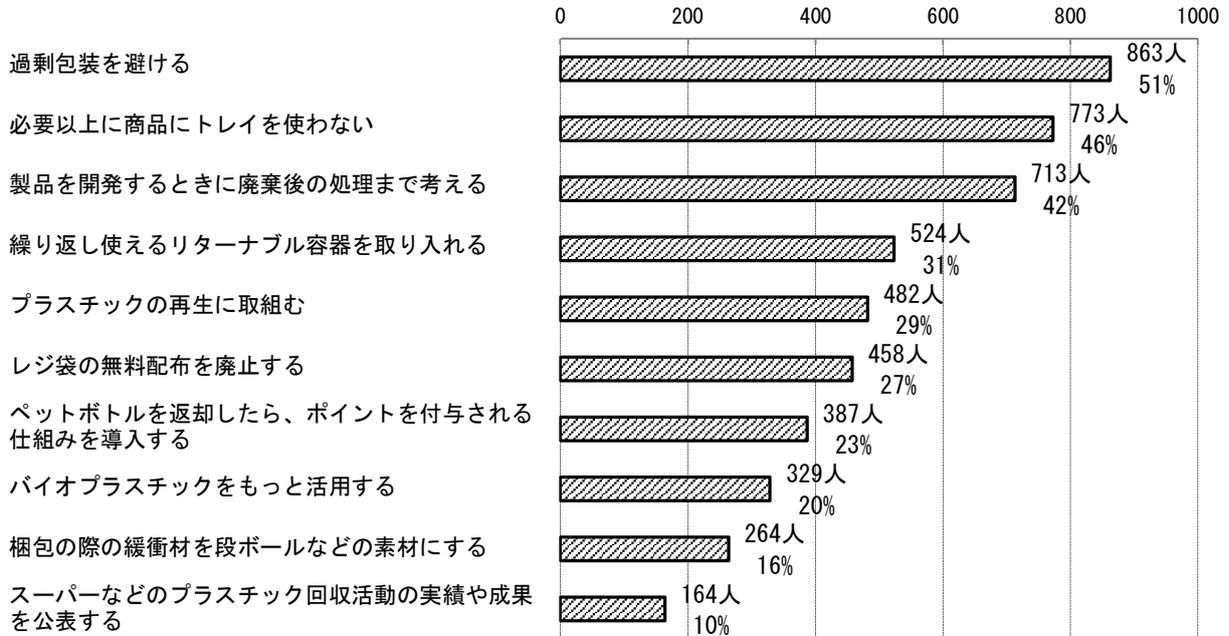
男女別では、概ね女性が高いが、「身の回りに落ちているごみは持ち帰る」は男性が高い。

年代別／男女別	人数	問7 今後、プラスチックごみの削減のために、消費者行動をどのように変えていけばいいと思いますか。(3つまで)								
		無駄になるものを買わない	自分が出したごみは、最後まで適正に処理する	長く使える製品や再生利用できるものを買う	使い捨てプラスチックを使わない、もらわない	ものを買うときは、廃棄することも考えて買う	バイオプラスチックの導入など、割高でも、プラスチックの削減に取り組む企業を応援する	地域や学校の清掃活動に積極的に参加する	身の回りなどに落ちているごみは、持ち帰って分別収集に出す	
年代別	20歳未満	226人	162(72%)	112(50%)	114(50%)	96(42%)	86(38%)	17(8%)	18(8%)	32(14%)
	20代	308人	210(68%)	159(52%)	154(50%)	107(35%)	123(40%)	35(11%)	21(7%)	49(16%)
	30代	168人	137(82%)	75(45%)	77(46%)	64(38%)	57(34%)	17(10%)	13(8%)	12(7%)
	40代	282人	196(70%)	134(48%)	130(46%)	116(41%)	109(39%)	40(14%)	30(11%)	24(9%)
	50代	267人	180(67%)	147(55%)	99(37%)	112(42%)	116(43%)	53(20%)	29(11%)	15(6%)
	60代	240人	153(64%)	144(60%)	103(43%)	93(39%)	94(39%)	51(21%)	44(18%)	25(10%)
	70歳以上	191人	133(70%)	119(62%)	86(45%)	79(41%)	69(36%)	48(25%)	49(26%)	35(18%)
無回答	5人	3(60%)	3(60%)	2(40%)	0(0%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	
男女別	男	639人	436(68%)	338(53%)	271(42%)	232(36%)	232(36%)	87(14%)	72(11%)	94(15%)
	女	1,033人	727(70%)	550(53%)	490(47%)	431(42%)	416(40%)	173(17%)	127(12%)	98(9%)
	無回答	15人	11(73%)	5(33%)	4(27%)	4(27%)	7(47%)	1(7%)	5(33%)	0(0%)
	全体	1,687人	1174(70%)	893(53%)	765(45%)	667(40%)	655(39%)	261(15%)	204(12%)	192(11%)

問8 プラスチックごみを削減するために、企業に望むことは何ですか。(3つまで)

(1)全体では

「過剰包装を避ける」51%、「必要以上にトレイを使わない」46%、「製品を開発するときに廃棄後の処理まで考える」42%である。



(2)年代別・男女別では

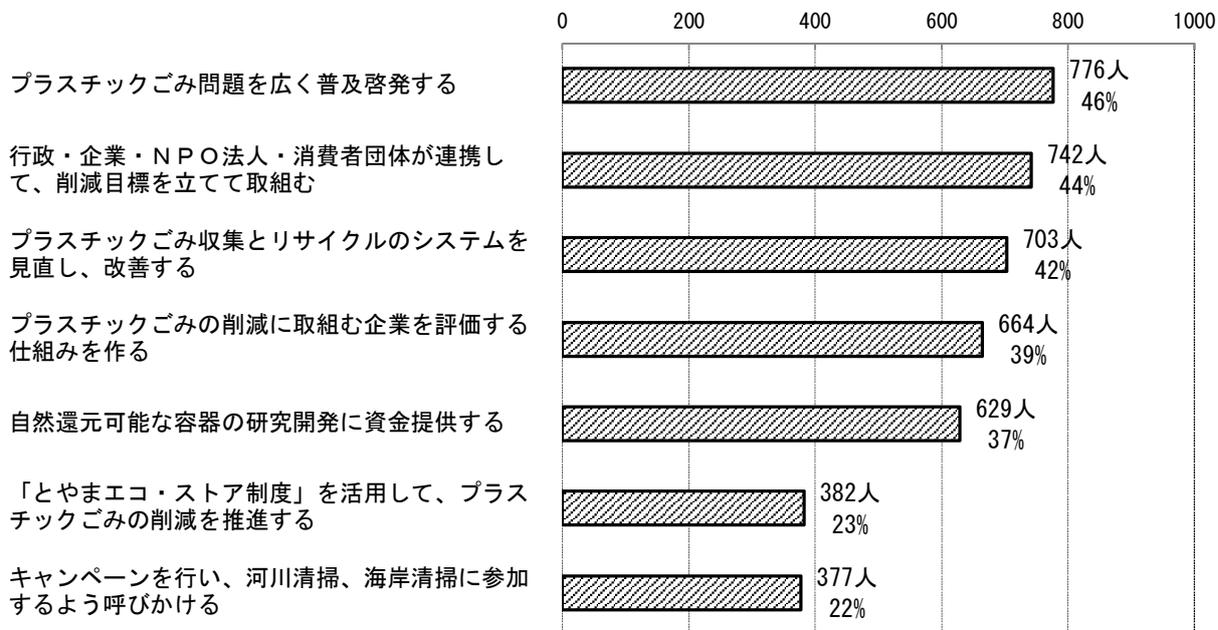
「過剰包装を避ける」は、30代から50代が高く、「必要以上にトレイを使わない」は60代以上が高い。
 「繰り返し使えるリターナブル容器を取り入れる」、「プラスチックの再生に取り組む」は20代以下が高い。
 「ペットボトルを返却したらポイントを付与される仕組みを導入する」は30代以下が高い。
 男女別では、「過剰包装を避ける」、「必要以上に商品にトレイを使わない」は女性が高い。

年代別／男女別	人数	問8 プラスチックごみを削減するために、企業に望むことは何ですか。(3つまで)										
		過剰包装を避ける	必要以上に商品にトレイを使わない	製品を開発するときに廃棄後の処理まで考える	繰り返し使えるリターナブル容器を取り入れる	プラスチックの再生に取り組む	レジ袋の無料配布を廃止する	ペットボトルを返却したらポイントを付与される仕組みを導入する	バイオプラスチックをもっと活用する	梱包の際の緩衝材を段ボールなどの素材にする	スーパーなどのプラスチック回収活動の実績や成果を公表する	
年代別	20歳未満	226人	95(42%)	77(34%)	81(36%)	76(34%)	82(36%)	69(31%)	67(30%)	30(13%)	24(11%)	19(8%)
	20代	308人	135(44%)	107(35%)	112(36%)	118(38%)	100(32%)	81(26%)	75(24%)	45(15%)	39(13%)	31(10%)
	30代	168人	95(57%)	82(49%)	47(28%)	45(27%)	34(20%)	38(23%)	51(30%)	26(15%)	23(14%)	20(12%)
	40代	282人	167(59%)	129(46%)	128(45%)	82(29%)	76(27%)	62(22%)	58(21%)	52(18%)	33(12%)	22(8%)
	50代	267人	149(56%)	122(46%)	131(49%)	73(27%)	80(30%)	55(21%)	57(21%)	57(21%)	37(14%)	19(7%)
	60代	240人	123(51%)	132(55%)	110(46%)	72(30%)	54(22%)	82(34%)	33(14%)	77(32%)	51(21%)	26(11%)
	70歳以上	191人	98(51%)	122(64%)	103(54%)	57(30%)	56(29%)	69(36%)	45(24%)	42(22%)	57(30%)	26(14%)
	無回答	5人	1(20%)	2(40%)	1(20%)	1(20%)	0(0%)	2(40%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)	1(20%)
男女別	男	639人	290(45%)	245(38%)	265(41%)	190(30%)	195(31%)	174(27%)	142(22%)	130(20%)	113(18%)	63(10%)
	女	1,033人	568(55%)	519(50%)	442(43%)	331(32%)	286(28%)	281(27%)	242(23%)	197(19%)	149(14%)	98(9%)
	無回答	15人	5(33%)	9(60%)	6(40%)	3(20%)	1(7%)	3(20%)	3(20%)	2(13%)	2(13%)	3(20%)
	全体	1,687人	863(51%)	773(46%)	713(42%)	524(31%)	482(29%)	458(27%)	387(23%)	329(20%)	264(16%)	164(10%)

問9 プラスチックごみを削減するために、行政に望むことは何ですか。(3つまで)

(1)全体では

「普及啓発を行う」46%、「行政・企業・NPO法人・消費者団体が連携して削減目標を立てて取り組む」44%、「収集とリサイクルのシステムを見直し、改善する」42%である。



(2)年代別・男女別では

「プラスチックごみ問題について普及啓発を行う」は、特に60代が高く、「削減目標を立てて取り組む」は、70歳以上が高い。「美しい山河を守るキャンペーンを行い、河川や海岸の清掃に参加するよう呼びかける」は20代以下と70歳以上が高い。

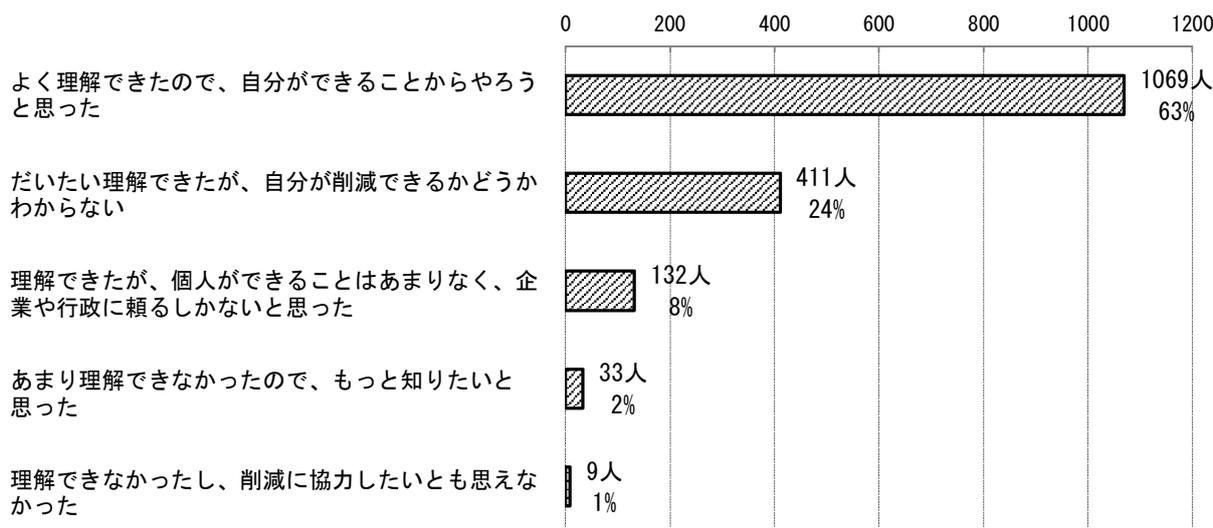
男女別では、「プラスチックごみ収集とリサイクルシステムを見直す」は女性が高く、「プラスチックごみ削減に取り組む企業を評価する仕組みを作る」は男性が高い。

年代別 ／ 男女別	人数	問9 プラスチックごみを削減するために、行政に望むことは何ですか。(3つまで)						
		をブ 広ラ くス 普チ ツク 啓グ 発ご すみ る問 題	てし人 取て・政 組、消・ む削費企 減者業 目団・ 標体N をがP 立連O て携法	ムとブ をリラ 見サス 直イチ シクツ 、ル 改の 善シ み すス るテ	す減 るに ラ 仕取 組組 チ み む ツ を 企 作 業 ご る を み 評 の 価 削	る研 究 然 開 還 発 元 に 可 資 金 な 提 容 供 器 す の	をラ制 推ス度 進チと す度 ツを する ま ク活 ご用 みし の 削 ト 減 プ ア	る参 河 加 川 ヤ ン 掃 ベ よ、 う 海 ン 呼 岸 を び 清 行 か 掃 い け に、
20歳未満	226人	97(43%)	105(46%)	92(41%)	85(38%)	80(35%)	52(23%)	68(30%)
20代	308人	139(45%)	143(46%)	100(32%)	125(41%)	105(34%)	71(23%)	85(28%)
30代	168人	80(48%)	64(38%)	61(36%)	64(38%)	56(33%)	42(25%)	29(17%)
40代	282人	131(46%)	111(39%)	131(46%)	124(44%)	100(35%)	47(17%)	49(17%)
50代	267人	117(44%)	96(36%)	119(45%)	118(44%)	113(42%)	56(21%)	43(16%)
60代	240人	125(52%)	108(45%)	112(47%)	86(36%)	89(37%)	62(26%)	48(20%)
70歳以上	191人	86(45%)	114(60%)	85(45%)	60(31%)	83(43%)	52(27%)	55(29%)
無回答	5人	1(20%)	1(20%)	3(60%)	2(40%)	3(60%)	0(0%)	0(0%)
男	639人	299(47%)	266(42%)	234(37%)	277(43%)	251(39%)	131(21%)	149(23%)
女	1,033人	473(46%)	470(45%)	463(45%)	381(37%)	375(36%)	248(24%)	226(22%)
無回答	15人	4(27%)	6(40%)	6(40%)	6(40%)	3(20%)	3(20%)	2(13%)
全体	1,687人	776(46%)	742(44%)	703(42%)	664(39%)	629(37%)	382(23%)	377(22%)

問10 本アンケートを通して、プラスチックごみ削減のために、今後行動しようと思うことはありましたか。(1つだけ)

(1)全体では

「よく理解できたので、自分ができることをやろうと思った」63%、「だいたい理解できたが、自分が削減できるかどうか分からない」24%、「個人でできることはあまりなく、企業や行政に頼るしかないと思った」8%である。



(2)年代別・男女別では

「よく理解できたので、自分ができる事からやろうと思った」は40代以上と女性が高い。
 「だいたい理解できたが、自分が削減できるかどうか分からない」は20代以下と男性が高い。

年代別／男女別		人数	問10 本アンケートを通して、プラスチックごみ削減のために、今後行動しようと思うことはありましたか。(1つだけ)				
			よく理解できたので、自分ができることからやろうと思った	だいたい理解できたが、自分が削減できるかどうか分からない	理解できたが、個人でできることはあまりなく、企業や行政に頼るしかないと思った	あまり理解できなかったなので、もっと知りたいと思った	理解できなかったし、削減に協力したいとも思えなかった
年代別	20歳未満	226人	127(56%)	68(30%)	18(8%)	9(4%)	2(1%)
	20代	308人	158(51%)	108(35%)	30(10%)	6(2%)	2(1%)
	30代	168人	99(59%)	47(28%)	14(8%)	3(2%)	0(0%)
	40代	282人	193(68%)	68(24%)	11(4%)	5(2%)	0(0%)
	50代	267人	181(68%)	56(21%)	18(7%)	2(1%)	3(1%)
	60代	240人	173(72%)	41(17%)	12(5%)	5(2%)	2(1%)
	70歳以上	191人	136(71%)	22(12%)	28(15%)	3(2%)	0(0%)
	無回答	5人	2(40%)	1(20%)	1(20%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男	639人	346(54%)	192(30%)	68(11%)	14(2%)	6(1%)
	女	1,033人	714(69%)	216(21%)	61(6%)	19(2%)	3(0%)
	無回答	15人	9(60%)	3(20%)	3(20%)	0(0%)	0(0%)
	全体	1,687人	1069(63%)	411(24%)	132(8%)	33(2%)	9(1%)

4. 参考データ

(1) 問2の「プラスチックによる環境汚染に関する記述で知っている項目の数」と、問4の「プラスチックに関するサービスで、必要ではないと思う項目」とを比較すると、

プラスチックによる環境汚染について知っている項目の数と、プラスチックに関するサービスを必要でないと思う割合は、概ね比例している。ただ、「生鮮食品が食品トレイに入っていること」については、知っている項目が5個の人は必要でないとする割合が高いが、その他の人については、必ずしも比例していない。

問2で知っている項目数	人数	問4の各項目で「必要ではない」と回答された方の数										
		① 小売店などで渡されるレジ袋	② 小売店などで渡される消費者の意を確	③ 食品購入時に、消費者の意を捨てる	④ 販売された製品の容器やバラの中	⑤ ファーストフード店などで、消費	⑥ 生鮮食品が食品トレイに入っている	⑦ 贈答品やお菓子に入っている	⑧ クリーニング店やクリーニング	⑨ 雨天時に、店舗などの入り口で提	⑩ ホテル、旅館などで、部屋に置	⑪ 通販などで購入した際に、商品さ
回答数0	42人	9(21%)	7(17%)	5(12%)	7(17%)	6(14%)	4(10%)	11(26%)	4(10%)	7(17%)	1(2%)	14(33%)
回答数1	231人	76(33%)	64(28%)	59(26%)	61(26%)	48(21%)	33(14%)	72(31%)	45(19%)	66(29%)	31(13%)	120(52%)
回答数2	396人	183(46%)	163(41%)	147(37%)	136(34%)	121(31%)	66(17%)	155(39%)	76(19%)	129(33%)	67(17%)	252(64%)
回答数3	430人	205(48%)	224(52%)	184(43%)	161(37%)	138(32%)	56(13%)	235(55%)	114(27%)	139(32%)	68(16%)	307(71%)
回答数4	333人	191(57%)	212(64%)	178(53%)	125(38%)	151(45%)	57(17%)	195(59%)	85(26%)	117(35%)	83(25%)	257(77%)
回答数5	255人	152(60%)	154(60%)	148(58%)	111(44%)	122(48%)	84(33%)	132(52%)	84(33%)	106(42%)	76(30%)	172(67%)
全体	1,687人	816(48%)	824(49%)	721(43%)	601(36%)	586(35%)	300(18%)	800(47%)	408(24%)	564(33%)	326(19%)	1122(67%)

(2) 問2の「プラスチックによる環境汚染に関する記述で知っている項目の数」と、問5の「プラスチックごみの削減のために、いつも心がけている行動」とを比較すると、

プラスチックによる環境汚染について知っている項目の数と、プラスチックごみの削減のために心がけている行動の割合は、概ね比例している。

ただ、知っている項目が5個の人でも、「ファーストフード店でストローを断る」25%、「外出の際のマイボトル持参」は36%、「過剰包装を断る」45%、「コンビニ等でのマイバッグ持参」は51%に留まっている。

問2で知っている項目数	人数	問5の各項目で「いつも心がけている」と回答された方の数							
		① スーパーでの買い物に、レジ袋を断る	② コンビニ、ドラッグストアなどで、マイボトルを持参する	③ 外出の際は、マイボトルを持参する	④ ファーストフード店などで、ストローを断る	⑤ 旅行や出張に出かける際、自分や家族の歯磨き粉などを持参する	⑥ 雨天時には、傘とともに	⑦ 詰め替え用商品を選ぶ	⑧ 過剰包装を断る
回答数0	42人	19(45%)	8(19%)	8(19%)	5(12%)	15(36%)	5(12%)	13(31%)	5(12%)
回答数1	231人	100(43%)	54(23%)	38(16%)	17(7%)	92(40%)	26(11%)	95(41%)	46(20%)
回答数2	396人	221(56%)	80(20%)	83(21%)	25(6%)	186(47%)	36(9%)	208(53%)	93(23%)
回答数3	430人	286(67%)	108(25%)	122(28%)	28(7%)	233(54%)	46(11%)	265(62%)	135(31%)
回答数4	333人	257(77%)	117(35%)	97(29%)	41(12%)	195(59%)	45(14%)	218(65%)	124(37%)
回答数5	255人	191(75%)	131(51%)	93(36%)	64(25%)	155(61%)	54(21%)	156(61%)	116(45%)
全体	1,687人	1,074(64%)	498(30%)	441(26%)	180(11%)	876(52%)	212(13%)	955(57%)	519(31%)

(3)「問2のプラスチックによる環境汚染に関する記述で知っている項目の数」と、「問7の消費行動をどう変えていけばいいか」とを比較すると、

プラスチックによる環境汚染について知っている項目の多い人ほど、「容器包装にバイオプラスチックを導入するなど、割高でも、プラスチックごみの削減に取り組む企業を応援する」や、「使い捨てプラスチックを出来るだけ使わない、もらわない」と答えている割合が高い傾向がある。

問2で知っている 答えた項目数	人数	問7 今後、プラスチックごみの削減のために、消費者行動をどのように変えていけばいいと思いますか。 (3つまで)								
		無駄になるものは買わない	自分が出したゴミは、最後まで責任を持って適正に処理する	利用できるだけ長く使える製品や再生利用できるものを買う	できるだけ長く使える製品や再生利用できるものを買う	使い捨てプラスチック製品をできるだけ捨てる	ものを買うときは、廃棄するとき	ものを考えるときは、廃棄するとき	容器包装にバイオプラスチックの削減に取り組む企業を応援する	地域や学校の清掃活動に積極的に参加する
回答数0	42人	24(57%)	17(40%)	20(48%)	9(21%)	16(38%)	4(10%)	6(14%)	5(12%)	
回答数1	231人	167(72%)	117(51%)	90(39%)	75(32%)	85(37%)	20(9%)	20(9%)	22(10%)	
回答数2	396人	282(71%)	203(51%)	172(43%)	160(40%)	153(39%)	32(8%)	47(12%)	44(11%)	
回答数3	430人	291(68%)	238(55%)	219(51%)	168(39%)	169(39%)	71(17%)	48(11%)	51(12%)	
回答数4	333人	233(70%)	178(53%)	155(47%)	149(45%)	135(41%)	81(24%)	40(12%)	33(10%)	
回答数5	255人	177(69%)	140(55%)	109(43%)	106(42%)	97(38%)	53(21%)	43(17%)	37(15%)	
全体	1,687人	1174(70%)	893(53%)	765(45%)	667(40%)	655(39%)	261(15%)	204(12%)	192(11%)	

(4)「問4のプラスチックに関するサービスで必要ではないと思う項目」と、「問8の企業に望むこと」とを比較すると、

プラスチックに関するサービスで必要ではないと回答している人は、企業に対して、「必要以上に商品にトレイを使わない」や、「レジ袋の無料配布を廃止する」や、「梱包の際の緩衝材を、段ボールなどの素材にする」、などを望む割合が高い傾向がある。

問8 プラスチックごみを削減する ために、企業に望むこと (3つまで)	人数	問4の各項目で「必要ではない」と回答された方の数										
		①確認しない	②小売店などで渡されるレジ袋を削減する	③小売店などで渡されるレジ袋を削減する	④小売店などで渡されるレジ袋を削減する	⑤小売店などで渡されるレジ袋を削減する	⑥小売店などで渡されるレジ袋を削減する	⑦小売店などで渡されるレジ袋を削減する	⑧小売店などで渡されるレジ袋を削減する	⑨小売店などで渡されるレジ袋を削減する	⑩小売店などで渡されるレジ袋を削減する	⑪小売店などで渡されるレジ袋を削減する
過剰包装を避ける	863人	429(50%)	438(51%)	373(43%)	329(38%)	288(33%)	155(18%)	409(47%)	198(23%)	311(36%)	172(20%)	634(73%)
必要以上に商品にトレイを使わない	773人	401(52%)	411(53%)	374(48%)	310(40%)	307(40%)	184(24%)	409(53%)	218(28%)	273(35%)	173(22%)	536(69%)
製品を開発するときに、廃棄後の処理まで考えて作る	713人	352(49%)	363(51%)	315(44%)	251(35%)	252(35%)	113(16%)	364(51%)	170(24%)	235(33%)	152(21%)	485(68%)
使い捨て容器ではなく、繰り返し使えるリターナル容器を取り入れる	524人	248(47%)	249(48%)	224(43%)	200(38%)	195(37%)	91(17%)	267(51%)	160(31%)	180(34%)	96(18%)	342(65%)
プラスチックの再生に取り組む	482人	219(45%)	231(48%)	189(39%)	153(32%)	149(31%)	67(14%)	206(43%)	110(23%)	153(32%)	78(16%)	316(66%)
レジ袋の無料配布を廃止する	458人	245(53%)	243(53%)	224(49%)	175(38%)	187(41%)	82(18%)	226(49%)	124(27%)	172(38%)	102(22%)	295(64%)
ペットボトルを返却したら、ポイントを付与される仕組みを導入する	387人	171(44%)	150(39%)	143(37%)	146(38%)	134(35%)	66(17%)	168(43%)	79(20%)	140(36%)	70(18%)	270(70%)
バイオプラスチックをもっと活用する	329人	174(53%)	180(55%)	166(50%)	112(34%)	128(39%)	53(16%)	169(51%)	74(22%)	97(29%)	62(19%)	226(69%)
梱包の際の緩衝材を、段ボールなどの素材にする	264人	134(51%)	138(52%)	133(50%)	106(40%)	112(42%)	48(18%)	146(55%)	69(26%)	108(41%)	71(27%)	189(72%)
スーパーなどのプラスチック回収活動の実績や成果を公表する	164人	77(47%)	78(48%)	74(45%)	53(32%)	58(35%)	35(21%)	69(42%)	41(25%)	61(37%)	35(21%)	94(57%)
全体	1,687人	816(48%)	824(49%)	721(43%)	601(36%)	586(35%)	300(18%)	800(47%)	408(24%)	564(33%)	326(19%)	1122(67%)

(5)「問4のプラスチックに関するサービスで必要であると思う項目」と、「問8の企業に望むこと」とを比較すると、

プラスチックに関するサービスで必要であると回答している人は、企業に対して、「プラスチックの再生に取り組む」や、「ペットボトルを返却したら、ポイントを付与される仕組みを導入する」や、「スーパーなどのプラスチック回収活動の実績や成果を公表する」などを望む割合が高い傾向がある。

問8 プラスチックごみを削減するためには、企業に望むこと (3つまで)	人数	問4の各項目で「必要である」と回答された方の数											
		①確認しないレジ袋	②小売店などで、消費者の意思を	③購入時に、消費者の意思を	④仕切りの容器など	⑤フード店などで、消費者の意思を確認しない	⑥トレイやカップのふた	⑦食品トレイ	⑧お菓子の容器	⑨クリーニング店	⑩ホテル、旅館など	⑪購入した際に、商品	
過剰包装を避ける	863人	103 (12%)	146 (17%)	186 (22%)	171 (20%)	231 (27%)	335 (39%)	146 (17%)	266 (31%)	200 (23%)	335 (39%)	44 (5%)	
必要以上に商品にトレイを使わない	773人	83 (11%)	103 (13%)	130 (17%)	109 (14%)	163 (21%)	218 (28%)	98 (13%)	196 (25%)	163 (21%)	258 (33%)	51 (7%)	
製品を開発するとき、廃棄後の処理まで考えて作る	713人	78 (11%)	114 (16%)	154 (22%)	138 (19%)	167 (23%)	287 (40%)	110 (15%)	212 (30%)	171 (24%)	276 (39%)	46 (6%)	
使い捨て容器ではなく、繰り返し使えるリターナブル容器を取り入れる	524人	72 (14%)	99 (19%)	128 (24%)	102 (19%)	138 (26%)	205 (39%)	86 (16%)	153 (29%)	130 (25%)	218 (42%)	46 (9%)	
プラスチックの再生に取り組む	482人	70 (15%)	96 (20%)	124 (26%)	120 (25%)	154 (32%)	211 (44%)	101 (21%)	171 (35%)	122 (25%)	211 (44%)	36 (7%)	
レジ袋の無料配布を廃止する	458人	45 (10%)	67 (15%)	108 (24%)	82 (18%)	88 (19%)	179 (39%)	65 (14%)	135 (29%)	95 (21%)	168 (37%)	44 (10%)	
ペットボトルを返却したら、ポイントを付与される仕組みを導入する	387人	76 (20%)	88 (23%)	107 (28%)	81 (21%)	111 (29%)	177 (46%)	86 (22%)	135 (35%)	98 (25%)	190 (49%)	23 (6%)	
バイオプラスチックをもっと活用する	329人	35 (11%)	47 (14%)	63 (19%)	66 (20%)	75 (23%)	125 (38%)	48 (15%)	104 (32%)	79 (24%)	117 (36%)	20 (6%)	
梱包の際の緩衝材を、段ボールなどの素材にする	264人	34 (13%)	41 (16%)	52 (20%)	53 (20%)	49 (19%)	103 (39%)	39 (15%)	81 (31%)	58 (22%)	87 (33%)	17 (6%)	
スーパーなどのプラスチック回収活動の実績や成果を公表する	164人	27 (16%)	39 (24%)	45 (27%)	32 (20%)	50 (30%)	62 (38%)	29 (18%)	48 (29%)	39 (24%)	67 (41%)	13 (8%)	
全体	1,687人	215 (13%)	293 (17%)	389 (23%)	331 (20%)	438 (26%)	645 (38%)	290 (17%)	524 (31%)	399 (24%)	669 (40%)	120 (7%)	

問3 参考 (リサイクル識別表示マーク)

	
プラスチック製容器包装マーク	ペットボトルマーク

※上記識別マーク以外のプラスチック製品の廃棄については、各自治体の担当部署にご確認ください。

IV まとめ

1 調査結果のまとめ

(1) プラスチックについて

「問1」プラスチックに関して知っている項目については、

- ・プラスチックは、「主に石油や天然ガスから作られる」は84%、「分解性が低く、自然界に放出されると回収、処理が困難である」は74%が知っており、プラスチックの原料や性質については、比較的高い認知度を示している。
- ・「容器包装リサイクル法の対象となるプラスチックには、識別マークの表示が義務づけられている」は59%、「消費者がプラスチック製容器包装を資源物として出すときは、識別表示マークを確認することが求められている」は54%で、リサイクル識別表示マークについては、半数程度の認知度に留まっている。
- ・「容器包装リサイクル法は、消費者に排出抑制と分別排出を、市町村に分別収集を、事業者にも再商品化を義務づけている」は41%である。
- ・男女別では、「プラスチックの原料・性質」については、男性の知っている割合が高く、「容器包装リサイクル法の対象となるプラスチックへの識別マークの表示を義務づけ」、「プラスチック製容器包装を資源物として出すときの識別マークの確認」については、女性が高い。これは、プラスチックの分別回収を担当するのは女性が多いためと思われる。年齢別に見ると、20代以下の若い世代の認知度が低い傾向がある。

「問2」プラスチックによる環境汚染に関して知っている項目については、

- ・「身の回りで放置されたプラスチックごみが、風に飛ばされ、川や海へと流れ着いている」は85%、「プラスチックごみがマイクロプラスチックに変化し、魚や鳥が食べて、生態系に影響している」は73%が知っており、比較的高い認知度を示している。
- ・「国は、レジ袋の無料配布を廃止した富山方式を参考に、レジ袋の無料配布廃止の義務化を検討している」は64%、「プラスチックごみの輸出が難しくなり、国内で処理しなければならなくなる」は46%に留まっている。
- ・「富山湾の海洋漂着物の8割が県内由来のプラスチックである」は24%であり、知っている割合が最も低い。
- ・年代別では、すべての項目で、20代以下の知っている割合が低い傾向がある。

(2) プラスチックと容器包装の扱いについて

「問3」プラスチックの分別回収の際、リサイクル識別表示マークを確認して出しているかについては、

- ・「確認している」45%、「ある程度確認している」32%、合わせて77%である。

「あまり確認していない」、「まったく確認していない」を合わせると、20%である。

- ・年代別では、「確認している」、「ある程度確認している」を合わせると、20代以下が低い傾向がある。男女別では、「確認している」、「ある程度確認している」を合わせると、女性が17ポイント高い。これは、問1と同様、プラスチックの分別回収を担当するのは、女性が多いためと思われる。

**「問4」小売店・飲食店などが提供するプラスチックに関するサービスに対して、
どのように感じているかについては、**

- ・「必要ではない」が多いサービスは、「⑩通販の大きすぎる箱、包装」67%、「②小売店で意思を確認しないで渡される箸、フォークなど」49%、「①レジ袋」48%、「⑦贈答品に付いたフォークやスプーン」47%である。
- ・一方、「必要である」が多いのは、「⑩ホテルに置いてある歯ブラシセットなど」40%、「⑥生鮮食品の食品トレイ」38%である。
- ・また、「どちらともいえない」が多いのは、「④弁当のカップやバラン」43%、「⑧クリーニングのハンガーやビニール袋」43%、「⑥生鮮食品の食品トレイ」42%である。
- ・「⑥生鮮食品の食品トレイ」については、「必要ではない」(18%)に対して、「必要である」(38%)や、「どちらともいえない」(42%)が多い。これは、生鮮食品については、鮮度や衛生面が重要視されることなどから、一概には決められないのではないかと思われる。
- ・「必要ではない」とする割合を年代別、男女別にみると、「⑩通販の大きすぎる箱、包装」は、女性が高い。「②小売店で意思を確認しないで渡される箸、フォークなど」は、50代・60代が高く、「①レジ袋」は、60代が高く、「⑦贈答品に付いたフォークやスプーン」は、60代以上と女性が高い。
- ・一方、「必要である」とする割合を年代別にみると、「⑩ホテルに置いてある歯ブラシセットなど」、「⑥生鮮食品の食品トレイ」は、20代以下が高い。

「問5」日頃、プラスチックごみの削減のために、心がけていることについては、

- ・「いつも心がけている」、「たまに心がけている」を合わせて多いのは、「①スーパーにはマイバッグを持参する」88%、次いで「⑦詰め替え用商品を選ぶ」83%である。
- ・「いつも心がけている」、「たまに心がけている」を合わせた割合を男女別にみると、女性が男性より15ポイントから26ポイント高い。（「④ファーストフード店などでストローを断る」と「⑥雨天時に傘とともに傘袋を持っていく」以外の項目について）
- ・一方、「全く心がけていない」が多いのは、「⑥雨天時に傘とともに傘袋を持っていく」51%、「④ファーストフード店などでストローを断る」37%であり、「⑥雨天時に傘とともに傘袋を持っていく」については、30代から50代の割合が高く、「④ファーストフード店などでストローを断る」は、30代以下の割合が高い。

「問6」日頃、プラスチックごみによる環境汚染を避けるために、心がけていること

については、

- ・「いつも心がけている」、「たまに心がけている」を合わせて多いのは、「①ゴミのポイ捨てはしない」97%、「②川や海、山のくぼ地などにゴミを捨てない」96%、「③外出やレジャーの際にはごみを持ち帰る」95%、「④ごみが風に飛ばされないように、管理する」91%、「⑤学校やスーパーの資源回収の際は、分別方法を守る」91%と、いずれも高い割合を示している。
- ・一方、「⑦海岸の清掃活動に参加する」は30%と低いが、その中でも、40代・50代と男性では、参加するよう心がけている割合が高い傾向を示した。

(3) これからの消費者行動等について

「問7」今後、プラスチックごみの削減のために、消費者行動をどのように変えていけば

いいかについては、

- ・「無駄になるものは買わない」70%、「自分が出したごみは最後まで適正に処理する」53%、「長く使える製品を買う」45%、「使い捨てプラスチックを使わない、もらわない」40%、「ものを買うときは、廃棄することも考えて買う」39%である。
- ・一方、「バイオプラスチックの導入など、割高でもプラスチックの削減に取り組む企業を応援する」は15%、「地域や学校の清掃活動に参加する」は12%、「身の回りに落ちているごみは拾って持ち帰る」は11%と低い。
- ・年代別では、「無駄になる物を買わない」は30代が高く、「自分が出したごみは、適正に処理する」は60代以上が高く、「バイオプラスチックの導入など、割高でもプラスチックの削減に取り組む企業を応援する」は50代以上が高い。
「長く使える製品や再生利用できるものを買う」は20代以下が高く、「身の回りに落ちているごみは持ち帰る」は20代以下と70歳以上の割合が高い。
- ・男女別では、概ね女性が高い。

「問8」プラスチックごみを削減するために、企業に望むことについては、

- ・「過剰包装を避ける」は51%、「必要以上にトレイを使わない」は46%、「製品を開発するときに廃棄後の処理まで考える」は42%である。
- ・一方、「バイオプラスチックをもっと活用する」は20%、「梱包の際の緩衝材を段ボールなどの素材にする」は16%、「スーパーなどのプラスチック回収活動の実績や成果を公表する」は10%である。
- ・年代別では、「過剰包装を避ける」は30代から50代が高く、「必要以上にトレイを使わない」は60代以上が高い。
- ・「繰り返し使えるリターナブル容器を取り入れる」、「プラスチックの再生に取り組む」は、20代以下の割合が高い。
- ・「ペットボトルを返却したらポイントを付与される仕組みを導入する」は30代以下が高い
「バイオプラスチックをもっと活用する」は60代が高く、「梱包の際の緩衝材を段ボール

などの素材にする」は60代以上が高い。

- ・男女別では、「過剰包装を避ける」、「必要以上に商品にトレイを使わない」については、女性が10ポイント以上高い。

「問9」プラスチックごみを削減するために、行政に望むことについては、

- ・「普及啓発を行う」は46%、「行政・企業・NPO法人・消費者団体が連携して削減目標を立てて取り組む」は44%、「プラスチックごみ収集とリサイクルのシステムを見直し、改善する」は42%、「プラスチックごみの削減に取り組む企業を評価する仕組みを作る」39%、「自然還元可能な容器の研究開発に資金提供する」は37%である。
- ・一方、「とやまエコ・ストア制度を活用して、プラスチックごみの削減を推進する」は23%、「美しい山河を守るためのキャンペーンを行い、河川清掃、海岸清掃に参加するよう呼びかける」は22%と、低い。
- ・年代別では、「プラスチックごみ問題について普及啓発を行う」は特に60代が高く、「削減目標を立てて取り組む」は70歳以上が高い。「美しい山河を守るためのキャンペーンを行い、河川や海岸の清掃に参加するよう呼びかける」は20代以下と70歳以上が高い。
- ・男女別では、「プラスチックごみ収集とリサイクルシステムを見直し、改善する」は女性が高い。これは、問1、問3と同様、プラスチックの分別回収を担当するのは、女性が多いためと思われる。また、「プラスチックごみ削減に取り組む企業を評価する仕組みを作る」は男性が高い。

「問10」本アンケートを通して、プラスチックごみ削減のために、今後行動しようと思うことはあったかについては、

- ・「よく理解できたので、自分ができることをやろうと思った」は63%、「だいたい理解できたが、自分が削減できるかどうかわからない」は24%、「個人でできることはあまりなく、企業や行政に頼るしかないと思った」は8%である。
- ・年代別、男女別では、「よく理解できたので、自分ができる事からやろうと思った」は40代以上と、女性が高い。「だいたい理解できたが、自分が削減できるかどうかわからない」は30代以下と、男性が高い。「理解できたが、個人でできることはあまりなく、企業や行政に頼るしかないと思った」は70歳以上と、男性が高い。

(4) 参考データ

- ① 「問2のプラスチックによる環境汚染に関する記述で知っている項目の数」と「問4のプラスチックに関するサービスで必要ではないと思う項目」とを比較すると、
 - ・プラスチックによる環境汚染について知っている項目の数と、プラスチックに関するサービスを必要でないと思う人の割合は、知っている項目が多い人ほど、サービスを必要でないと思う割合が高い傾向がある。
 - ・ただ、「生鮮食品が食品トレイに入っていること」については、知っている項目が5個

の人は必要でないとする割合が高いが、その他の人については、必ずしも対応していない。

② 「問2のプラスチックによる環境汚染に関する記述で知っている項目の数」と「問5のプラスチックごみの削減のためにいつも心がけている行動」とを比較すると、

- ・プラスチックによる環境汚染について知っている項目の数と、プラスチックごみの削減のために心がけている行動の割合は、概ねよく対応しており、知っている項目が多いほど、心がけている行動の割合が高い傾向がある。
- ・ただ、知っている項目が5個の人でも、「ファーストフード店でストローを断る」は25%、「外出の際のマイボトルを持参する」は36%に留まっている。

③ 「問2のプラスチックによる環境汚染に関する記述で知っている項目の数」と「問7の消費行動をどう変えていけばいいか」とを比較すると、

- ・プラスチックによる環境汚染について知っている項目の多い人ほど、「容器包装にバイオプラスチックを導入するなど、割高でも、プラスチックごみの削減に取り組む企業を応援する」や、「使い捨てプラスチック製品を使わない、もらわない」と答えている割合が高い傾向がある。

④ 「問4のプラスチックに関するサービスで必要ではないと思う人」が「問8のプラスチックごみを削減するために企業に望むこと」とを比較すると、

- ・プラスチックに関するサービスで必要ではないと回答している人は、企業に対して、「必要以上に商品にトレイを使わない」、「レジ袋の無料配布を廃止する」、「梱包の際の緩衝材を、段ボールなどの素材にする」を望む割合が高く、プラスチックごみの発生の抑制を志向する傾向がみられる。

⑤ 「問4のプラスチックに関するサービスで必要であると思う人」と「問8のプラスチックごみを削減するために企業に望むこと」とを比較すると、

- ・プラスチックに関するサービスで必要であると回答している人は、企業に対して、「プラスチックの再生に取り組む」や、「ペットボトルを返却したら、ポイントを付与される仕組みを導入する」ことを望む割合が高く、プラスチックの再商品化を志向する傾向がみられる。

2 調査結果から「プラスチックごみの削減」を推進するためには

(1) プラスチックごみ問題の背景

近年、プラスチックは、短期間で私たちの生活に浸透し、利便性と恩恵をもたらしている。また、包装材料の高機能化により食品ロスの削減やエネルギー効率の改善等にも

寄与している。

一方で、回収等によって有効利用される割合が世界全体で未だ低く、また、不適正な処理のため、多量のプラスチックごみが陸上から海洋へ流出するなど、地球規模での環境汚染が懸念されている。

こうした地球規模での資源・廃棄物の制約や海洋プラスチック問題は、SDGs（持続可能な開発のための2030アジェンダ）でも対応が求められている。

我が国においては、一人当たりの使い捨て容器包装の廃棄量が世界でも上位に位置すること、また、アジア各国による輸入規制が拡大して日本国内での資源循環が求められていることなどから、プラスチックごみを削減することは、我が国における喫緊の課題といえる。

アンケート調査結果を踏まえて、プラスチックごみを削減するため、消費者としてどのように行動すればいいか、企業や行政にはどのような役割を望むのか考えてみる。

（2）プラスチックごみを削減するための視点

私たちの生活は、様々なプラスチック製品に支えられており、プラスチック製品を全く利用しないということは難しい。

まずは、次のような視点に立って、消費者自らが出来ることから行動を起こすとともに、消費者の力の及ばない課題に対しては、企業や行政に要望していきたい。

また、消費者は、企業が行うプラスチックごみ削減の取組みを応援することや、行政の取組みに協力する姿勢を忘れてはならない。

① 3Rの推進

ア リデュース（プラスチックごみの発生を少なくすること）

（消費者の視点）

- ・必要でないプラスチックに関するサービスは、はっきりと断る。

学生との意見交換の中で、コンビニで渡されるレジ袋やスプーン、フォークなど、必要でないと思っても、いらぬとはっきり言う人はあまりいない、という指摘があった。消費者自身が、必要でないと思うプラスチックに関するサービスについては、はっきりと断るという消費者行動を習慣化することが大切である。

- ・マイバッグを持参して、レジ袋削減を推進する。

調査結果では、マイバッグ持参を心がけている人は、スーパーの買い物では88%、コンビニ、ドラッグストアの買い物では63%であり、また、20代以下の世代や男性では、マイバッグ持参を心がける割合が低い傾向がみられる。

本県では、全国に先駆けて平成20年4月からレジ袋無料配布廃止を実施しているが、今後も、マイバッグ持参が県民の日常生活により一層定着するよう働きかけるとともに、若い世代や男性に対しても習慣化するよう働きかけていくことが大切である。

- ・詰め替え用商品を選ぶ。

詰め替え用商品を選ぶよう心がけている人は83%であるが、20代以下の世代や男性では低い傾向がみられることから、継続して働きかけていくことが大切である。

・プラスチックごみを減らすよう、消費者行動を変えていく。

「無駄な物は買わない」、「長く使える商品や再生利用できるものを買う」、「使い捨てプラスチックを使わない、もらわない」など、プラスチックごみを減らすようにライフスタイルを見直していくことが大切である。

(事業者の視点)

・簡易梱包、簡易包装、詰め替え容器等の開発普及に努める。

企業に過剰包装を避けることを望む人は51%と半数であるが、今後、この傾向は省資源などの観点からも広まっていくものと思われ、企業もこうした消費者の志向を踏まえて、簡易梱包、簡易包装、詰め替え容器等の開発普及に取り組んでほしい。

・必要以上に商品にトレイを使わない。

企業に対して食品トレイの削減を望む人は42%であるが、必要なサービスかという問いに対しては、必要である38%、どちらともいえない42%となっている。生鮮食品については、鮮度や衛生面も重要であることから、企業は、こうした点にも配慮しつつ、トレイの削減を進めてほしい。

イ リユース（くりかえし使用すること）

(消費者の視点)

・くりかえし使えるリターナブル容器に入った製品を選ぶ。

(事業者の視点)

・くりかえし使えるリターナブル容器を取り入れる。

・製品を開発する時に、本体や部品のリユースがしやすいように工夫する。

ウ リサイクル（プラスチックごみを原材料やエネルギー源として有効利用すること）

(消費者の視点)

・プラスチック資源ごみの分別回収に協力する。

「容器包装リサイクル法の対象となるプラスチックには、識別マークの表示が義務づけられていること」や、「消費者がプラスチック製容器包装を資源物として出すときは、識別表示マークを確認することが求められていること」を知っている人は、半数程度に留まっている。

容器包装リサイクル法の仕組みや、識別表示マーク等について、消費者がもっとよく知って、プラスチックの適正な資源回収に協力することが大切である。

・プラスチックのリサイクル製品を積極的に利用する。

(事業者の視点)

・プラスチック容器包装の適正な回収と、再商品化に努める。

② 海洋プラスチック対策

- ・ごみのポイ捨てはしない、川や海や山のくぼ地にごみを捨てない、外出やレジャーの際にはごみを持ち帰り、ごみが風に飛ばされないように管理する

環境汚染を避けるためのこうした行動は、9割を超える人が心がけているが、実際には、地域でプラスチックごみを見かけたり、海に流れ着くプラスチックごみも発生しているため、引き続き、一人ひとりが認識し、実践していくことが大切である。

- ・海岸の清掃活動に参加する

海岸の清掃活動を心がけている人は30%と低く、今後は、清掃活動の実施状況等の情報提供に努めるなど、機会を捉えて参加するよう促していくことが大切である。

この点について、「行政に対してキャンペーンを行い海岸清掃等に参加するよう呼びかけることを要望する」割合は、20代以下の世代が高い。ホームページやテレビなどの媒体によって広報することで、参加者数が増えるということも考えられる。

③ 企業活動を評価し、応援すること

- ・バイオプラスチックの導入など、割高でも、プラスチックの削減に取り組む企業を応援する。

消費者行動を変えていく設問の中で、「割高でもプラスチックの削減に取り組む企業を応援する」は15%と低く、また、企業に対する要望で「企業はプラスチック回収活動などの実績や成果を公表する」も10%と低い。

しかし、企業は、SDGsへの取り組みや、消費者の志向に合わせて、プラスチックごみの削減に努めるとともに、プラスチックの回収活動や再商品化などの実績や成果を公表し、消費者に分かりやすく情報提供することが大切である。

消費者は、そうした企業の努力を知り、評価し、応援していくことが大切である。

興味深いのは、プラスチックに関するサービスが必要であると答えている人は、20代以下の世代が多いが、こうした人たちは、企業に対して、「プラスチックの再生に取り組む」ことや、「プラスチック回収活動などの実績や成果を公表する」ことを望む割合も高く、プラスチックの利便性は享受しつつも、企業活動の動向に関心を持っているといえよう。

企業と消費者が協働して、生産から流通までの過程を見直し、双方にメリットがあるようなプラスチック削減のモデル的な取り組みが、富山県から生まれることを期待したい。

④ エシカル消費の推進

エシカル消費とは、より良い社会に向けて、人や社会、環境に配慮した消費行動のことで、商品の価格や安全性のみでなく、地球環境に負荷をかけていないか、といった新しいモノサシを持って、消費行動を変えていこうとするものである。

プラスチックごみの削減についても、目先の利便性のみに捉われることなく、消費行動を見直し、エシカル消費を推進していくことが大切である。

⑤ プラスチックごみ問題について啓発普及する

問2と問4・問5・問7などとの関係から、プラスチックごみ問題について知識のある人は、日頃からプラスチックごみ削減のための行動を心がけている傾向が見られる。

消費者は、プラスチックごみ問題に対する理解を深めることが大切である。また、容器包装リサイクル法の仕組みや識別表示マークについては、正確な知識の習得に努めることが大切である。

行政に対する要望でも、「プラスチックごみ問題を広く啓発普及する」が最も多く、行政が主導して、各世代に向けて、継続的できめ細かな啓発普及を行っていくことが大切である。

その際に、学校教育、企業の社員教育、県民の生涯学習など、各世代に向けた体系的で効果的な消費者教育を行うことが大切である。

3 今後の取組み

(1) 消費者の取組み

- ① 消費者は、プラスチックごみ問題や、現行の容器包装リサイクルの仕組み等についての理解を深めることが大切であり、このため、協会として、ホームページ等によるきめ細かな情報提供や、学習機会の提供に一層努めていきたい。
- ② プラスチックごみ削減のための実践的な行動を促していきたい。
 - ・必要でないと思う プラスチックに関するサービスは、はっきり断るという消費者行動を習慣化するため、消費生活研究グループの活動等を通して、働きかけていきたい。
 - ・分別回収の徹底やリサイクル製品の活用など、プラスチックのリサイクルを促進するよう、消費者大会などのイベントなど、さまざまな機会を捉えて、働きかけていきたい。
 - ・マイバッグ持参については、引き続き啓発普及に努めるとともに、若い世代や男性に対しても習慣化するよう働きかけていきたい。
- ③ 海洋プラスチック問題に対しては、
 - ・ポイ捨てしないことや、ごみが風に飛ばされないように注意するなど、日常生活で、一人ひとりが心がけていくよう、くらしのアドバイザーによる啓発講座の機会等を活用して、働きかけていきたい。
 - ・海岸清掃などの地域社会活動への参加については、ホームページ等による情報提供など、参加しやすい風土（環境）づくりに努めていきたい。
- ④ 企業活動を応援する
 - ・企業に対しては、環境負荷をかけるような過剰なプラスチック製品のサービスは必要でないことを明確に伝えるとともに、プラスチックの削減に取り組む企業に対しては、評価し、応援していきたい。

(2) 企業に対する要望

企業に対しては、次の点について、意見交換会の機会などを捉えて、要望していきたい。

- ① SDGs に貢献する経営の一環として、過剰な包装やトレイを避ける、廃棄後の処理まで考えて製品開発をするなど、プラスチックの削減に取り組んでいただきたい。
- ② 食品トレイに関しては、生鮮食品の鮮度や衛生面への要請にも配慮しつつ、必要以上に商品にトレイを使わないよう、努めていただきたい。
- ③ プラスチック回収活動などの実績や成果、SDGs への貢献や、消費者志向を踏まえた企業活動などについて、消費者が理解し、応援することが出来るよう、積極的に広報していただきたい。

(3) 行政に対する要望

行政に対しては、次の点について、意見交換会などの機会を捉えて、要望していきたい。

- ① プラスチックごみ問題について、県民の各世代に向けて、継続的な普及啓発活動を実施していただきたい。

その際、学校教育や、企業と連携した社員教育、生涯学習など、体系的効果的な消費者教育に努めていただきたい。そうした消費者教育によって、地域に根ざした活動が展開されるよう、関係団体機関相互の連携強化にも留意していただきたい。また、県民の共感を得られるような、キャンペーン活動の展開なども検討していただきたい。

- ② レジ袋無料配布廃止を実現した時のような、行政、企業、消費者団体等が連携して取り組むことのできる事業の展開や、中長期的には、プラスチックごみの回収・リサイクルのシステムを見直し、より効率の高いリサイクルシステムの構築に努めていただきたい。
- ③ プラスチックごみの削減に取り組む企業を評価する仕組みを作るとともに、企業などのプラスチックに代わる素材の開発に対して支援していただきたい。

その際、レジ袋無料配布廃止の取組みをステップアップした「とやまエコ・ストア制度」をもっと消費者に分かりやすく広報するなど、企業への支援活動に努めていただきたい。

**プラスチックごみ削減のために、一人ひとりができることから実行しましょう！
そして、プラスチックごみの削減に取り組む企業を応援するとともに、行政の取組みに協力し、良好なパートナーシップの元に、持続可能な社会の発展のための行動を始めましょう！**

V 回答者の意見

1 設問毎の「その他」の意見

問4その他 小売店・飲食店などが提供する「プラスチックに関するサービス」に対して、どのように感じていますか。

不 要

スーパー等で

- ・野菜類については、トレイは要らない。 (60代 女性 他3名)
- ・スーパーなどでは、野菜など必ずトレイに入れ、ラップしてあり、ちょっと過剰ではないかと思う。衛生的かもしれないが、分別して取り出すのも大変。最近は、ばら売りも増えてきたような気がする。 (60代 女性)
- ・刺身、弁当、など過剰なプラスチックトレイ (60代 女性 他1名)
- ・コンビニやスーパーのお惣菜の包装を今後減らし、容器持参などにしたほうが良いと思う。 (20代 女性)
- ・スーパーの棚に置いてあるナイロン袋 (70歳以上 女性 他2名)
- ・スーパーの野菜ひとつ一つを包んである袋 (40代 女性)
- ・生鮮食品の二重袋入 (60代 女性 他1名)
- ・バラで購入した野菜をレジでわざわざビニール袋に入れられる。 (60代 女性)
- ・お弁当についているスプーンやフォーク (70歳以上 女性)

お菓子

- ・お菓子などの個包装 (70歳以上 女性 他2名)
- ・洋菓子(カップ類)などで二重包装がある。 (60代 女性)
- ・お菓子箱(洋菓子)の仕切り (60代 女性)

フィルム

- ・ペットボトルの商品説明フィルム (40代 女性 他3名)
- ・花束のフィルム等 (60代 男性)
- ・消しゴムの包装に使用されているビニールカバー (20代 男性)
- ・ティッシュ箱のナイロンパックと紙の出入口のナイロン (50代 女性)
- ・駅前などで歩いている人に配るポケットティッシュのフィルム (20代 男性)

梱包

- ・家電製品やネットショッピングなどの緩衝材としての発砲スチロールやプラスチック (60代 男性 他4名)
- ・透明袋でチラシ、冊子などを郵送(orメール便) (60代 女性)
- ・窓あき封筒(あて名が内に記載されている)透明なフィルム (30代 男性)

おまけのおもちゃ、包装 その他

- ・ファストフード店のキッズセットについているプラ製のおもちゃ（代わりに絵本なども登場しているが、プラ製のおもちゃよりは良い）（40代 女性 他2名）
- ・医薬品の携帯ケース（40代 女性）
- ・コンビニで一本の飲料を買うだけなのに、消費者の意思を確認しないで渡されるレジ袋（20代 女性）
- ・ファストフード店で、紙袋の上にナイロン袋に入れられる。（20代 男性）
- ・土産店などで渡される小分け用袋（60代 女性）
- ・ソックスやスリッパ等をまとめて結束している小さなプラスチックや小さなハンガー（50代 女性）
- ・値札のひもをプラスチック製から布のひもにすればよい。（20歳未満 女性）
- ・ホッチキスで止める等少しでもプラを減らす。（30代 女性）
- ・日本は他国に比べて過剰包装であり、ごみ問題につながってしまう。（40代 男性）
- ・個別の包装はやりすぎと思う。（40代 女性）
- ・サービスと環境配慮への意識のバランスがよくなれば良い。（50代 女性）
- ・問4のすべての項目について、（事前に国民へ周知をする）全部廃止すべきである。（60代 男性）
- ・店で、一緒にいいか確認せず、別の袋に分けること。（30代 男性）
- ・1回分に個包装されている商品。（ふりかけ、インスタントコーヒー、青汁、マヨネーズ等）（40代 女性）
- ・自販機を止めてほしい。プラスチック容器のものが多。（60代 女性）
- ・小売店と関係ないが、クリアファイルに入れて書類などを渡すこと。（70歳以上 女性）

必 要

- ・箸、フォーク、スプーン等、外出時には必要と思う。（70歳以上 女性）
- ・生鮮食品について、魚肉類はトレイに入っていた方が良い。（60代 女性）
- ・クリーニング店のハンガーは、結構使っているのももらえるのはうれしい。（40代 女性）
- ・必要なことがあるので完全に必要ないとはいいがたい。（30代 女性）

問5 その他 日頃、プラスチックごみの削減のために、心がけていることは何ですか。

分別

- ・ペットボトルを再利用できるように洗って出している。（50代 男性）
- ・プラごみの分別をできるだけ行っている。（60代 男性）
- ・汚れたプラは「もやせるごみ」として分別し、きれいなプラごみだけ分別回収に出している。（50代 女性）
- ・トレイやペットボトルはスーパーで回収しているので持参する。（50代 男性）

コンビニ等

- ・コンビニで使い捨ておしぼりを断っている。(社内に詰め替え式のウェットティッシュを置いている) (40代 女性)
- ・スーパーやコンビニで小さな商品購入時でもレジ袋セットしてくれるが、断ってシールのみをしている。 (70歳以上 女性)
- ・コンビニのはし、スプーン、お手ふきは、必要のある時以外は受け取らない。 (40代 女性)

ペットボトルのお茶等

- ・ペットボトル飲料を大勢で飲むときは、大きいサイズを購入 (60代 女性)
- ・マイボトルはプラスチック製ではなく、水筒にしている。 (20歳未満 女性)
- ・会合などでのペットボトルのお茶の提供は止めてほしい。 (60代 女性)
- ・夏はペットボトルのお茶と水出しのお茶を併用している。 (50代 女性)

その他

- ・ごみ出し時に、路上に捨ててあるプラスチックごみも回収して処分している。 (60代 女性)
- ・できるだけ外食を控え、弁当を持参するようにしている。 (70歳以上 女性)
- ・冷凍庫の保存用袋などは使用したら洗い2~3度使用する。 (70歳以上 女性)
- ・ヨーグルトは自宅で作り、余計なプラ容器が出ないようにする。 (40代 男性)
- ・地域の納涼祭に紙ストローとリユーズブル食器を提案した。 (30代 女性)
- ・同じ商品でもプラスチック容器に入っていない商品を選ぶ。 (40代 女性)
- ・デパート等の各売場で買い物をした場合、なるべくそれぞれのところでの袋は断り、一つの紙袋に入れるよう心かけている。 (70歳以上 女性)
- ・マイバック持参することを忘れて出かけてしまうことも多かったので、繰り返し使っているレジ袋やエコバックを常に車内やバックに携帯している。 (40代 女性)

問6 その他 日頃、プラスチックごみによる環境汚染を避けるために、心がけていることは何ですか。

- ・近くの公園、通勤道路、町内の道路のごみを拾う。(見つけたとき) (60代 男性 他3名)
- ・ごみ分別はしっかり行っている。 (60代 女性)
- ・環境保護団体に出資、情報収集、知人友人に紹介・呼びかけ (70歳以上 女性)
- ・畑に農業用マルチシートは使用しない。 (40代 女性)
- ・ビニール製品は汚れていなかったら使い回して再利用する。 (20歳未満 女性)
- ・釣りで、なるべくリードやルアーをロストしないこと。 (20代 男性)
- ・時間に縛られず、清掃活動に貢献できる仕組みがあるとよい。 (50代 女性)
- ・海岸の活動は山手には声かけがない。 (70歳以上 女性)

- ・海岸清掃は心掛けているが、老人で遠いため参加できないし歩くのも困難だ。
(70歳以上 女性)
- ・住まいが海から遠いので、海岸清掃に関心がない。
(70歳以上 女性)
- ・行政がリサイクル日を設定しているが、ごみ収集日に出るごみの量を見ると、住民に意識が届いていないことが分かる。
(60代 女性)
- ・生産者がペットボトルではない容器を考えてほしい。
(60代 女性)

問8 その他 プラスチックごみを削減するために、企業に望むことは何ですか。

- ・紙製品に変える。
(50代 男性 他1名)
- ・全製品のプラスチック使用割合の明記を義務化し、罰則を設けて、消費者が企業を選択することができるようにする。
(40代 女性)
- ・店舗でのばら売り。新聞紙にくるむなどビニール袋を使わない。飲料物も自分のポットでできるように工夫してほしい。児童の教材も使い捨てしない工夫を。
(60代 女性)
- ・プラ容器を有料で引き取る。(ペットボトル1本5円等)
(60代 男性)
- ・不要になった自社製品を回収する。
(40代 女性 他1名)

問9 その他 プラスチックごみを削減するために、行政に望むことは何ですか。

- ・こどもたちへの環境教育
(40代 女性 他2名)
- ・SDG s 関連イベントを定期的に行う。
(20代 男性)
- ・SDG s のカードゲームを行う。
(20代 男性)
- ・ひとり一人がごみを捨てないようモラルを高めるために 罰則も必要かも。
(60代 男性)
- ・プラスチック製品の削減を義務化する。
(70歳以上 男性 他1名)
- ・単純に禁止を義務付けるのではなく、エコポイントのように消費者にとって得になる制度を作り推進していく必要があると思う。
(20代 女性)
- ・プラスチックの再生にコストがかかることを企業・消費者にもっと周知する。
(40代 男性)
- ・県・市町村がペットボトルの使用をやめてみる。
(40代 女性)

問10 その他 本アンケートを通して、プラスチックごみ削減のために、今後行動しようと思うことはありましたか。

- ・子供と一緒にプラスチックごみ問題について調べ、一緒に考えていきたいと思った。
(30代 男性)
- ・ごみ削減を COOL な (格好良い) ことと感じられるような啓発活動をしたい。
(20代 男性)
- ・取り組み可能なことから行動していきたい。
(40代 男性 他2名)
- ・国策等によるプラスチック規制といった強い強制力で利用制限する。
(40代 男性)

2 自由意見

「プラスチックごみ削減」についてのあなたの考えを、ご自由に記入してください。

プラスチック製品について

- ・プラスチックは生活に深く浸透しているため、生活と切り離すことは難しいが、再利用可能なものにする、分別を徹底する、ポイ捨てしないなど企業・行政・消費者各自が取り組むことが必要である。（30代 男性）
- ・身の周りはプラスチックだらけで、今以上に削減努力するにはどうしたらよいかかわからない。できることを継続するしかない。（50代 女性）
- ・先日、テレビでプラスチック製品なし生活を体験していたが、無理であることを示していた。プラスチックを根本的にバイオプラスチックに変更する施策が必要である。（60代 女性）
- ・プラスチック製品がここまで広まってきたのは、それが安くて便利でもあるからだと思うが、地球環境への影響を抑えるコストを考えると、できることからすぐにでも実践していく必要がある。（40代 女性）
- ・プラスチック製品は、生活の多方面の商品として浸透しており、容易に減らせるものではない。行政面で規制されると良い。消耗品のプラスチック製品は、各家庭でしっかり分別管理すること、環境に配慮する意識を持続し続けたい。（70歳以上 女性）
- ・企業には、自然還元可能プラの仕様を促進し、個人には還元プラの製品を使用する様啓発する。併せて今迄通り分別の徹底を啓発、地味ではあるができるところから始めるしかない。また、プラ識別マークが小さすぎる。目立つところに表示されていない。行政で指導が必要である。（60代 男性）
- ・身の回りに便利なプラスチックが沢山あるので、減らしていこうと思う。 ナイロン袋を容器に変え、何度も使うなど、また、紙や布に変えるなど。（70歳以上 女性）
- ・プラスチックを使わない商品開発の促進。（20代 男性）
- ・企業にプラスチック製品作りについて制約を課するようになる。（70歳以上 女性）
- ・企業は、カップめんなど紙でできたものに統一したらどうか。（70歳以上 女性）
- ・そもそもプラスチック製品を使わない、作らない。（40代 女性）
- ・不要・有害となるプラスチック製品の製造・使用を禁止する法制化が必要である。プラスチック製品を作らなければ、代替品の使用を考えていくようになると思う。（70歳以上 男性）
- ・これまでは、プラスチックごみを分別して、資源回収に出すことだけに取り組んで自己満足をしていた。しかし、統計を見ると全世界でプラスチックのリサイクルはわずか9%ということを知り、ショックを受けた。これからは、企業がプラスチック製品をつくらない、使用しない。消費者がプラスチックを使った商品を購入しない、包装にも使わない方向へもっていかなければならないと思う。行政・企業・消費者が協力して削減に取り組むこ

とが必要である。 (60代 女性)

- ・日本は、衛生的な国であることの1つにプラスチックの利用があると思う。プラスチックに変わるものを開発できればよいと思うが、なかなか時間のかかる問題でもある。レジ袋、過剰包装等、誰でもすぐに取り組めることから取り組んでいきたいと思う。(60代 女性)
- ・現代の社会において「プラスチック」は必要不可欠なものとなっているので、「代替品」の開発、普及(周知、低価格化など)を進めると並行に、プラスチックごみの「その後」に注視すべきである。(施設、道路等のごみ箱の設置→ポイ捨ての減少 プラスチックごみの再利用→絶縁体や水に強い性質を利用したバリエード等、油化を用いた新燃料の開発、再構成して再利用する前に分解しやすくして使用するなど) (20歳未満 男性)
- ・企業側が、プラスチックに替わる物を用意するのに費用がかかりすぎるので、そのような取り組みを支援するなどが、必要である。(30代 女性)
- ・SDGsの12番。やはり作る責任と使う責任が問われていると思います。生活の中で便利なプラスチックですが、最後まで責任をもって使用する。手弁当だったり、マイポットだったり小さなことだけれど大切だと思っています。畑のなかの混ざってしまったプラスチックはいつまでも残って、見るたびに心が痛みます。なので、3Rは心がけて実施しています。(60代 女性)
- ・商品としてプラスチックが使用されていけば(食品トレー等)、購入してしまう。プラスチックにかわるものを開発(購入品から減らしてもらおう工夫)していただければと思う。(40代 女性)
- ・今後もプラスチック製品は必要であると思うので、できる限りバイオプラスチックに替えていけばいいと思う。価格も安く提供できるよう企業も研究、努力すべき。(50代 女性他4名)
- ・土に還る物を使うようにする、広まれば値段も下げることができる。(70歳以上 女性)
- ・プラスチック問題は手遅れだが、改善策を練ることはできる。例えば、まず人々にSDGsのことを知ってもらう必要がある。7月13日、7月28日に行われたチャレンジユニバーシティとやま2019がそれにあたる。その他にも、スターバックスが行っているプラスチックごみ削減に向けての取り組みをTV等で紹介する必要もある。(20代 男性)
- ・プラスチック製品のサービスはとても便利なもの(スプーン、おしぼり、アメニティ)ばかりなので、なくなると困ると思った。プラスチックでないストローとかも使われるようになってきているので良いと思います。(20代 女性他1名)
- ・プラ製品を紙素材にしたり、不必要なプラ製品は、メーカーで使わないようお願いしたい。(70歳以上 女性)
- ・コンビニでのレジ袋やホテルの歯ブラシセットなどあって当たり前なのが思い返してみれば、プラスチックだと思ったのでこれからプラスチックごみを意識して、削減につなげたい。(20代 女性)

- ・至急、使用後を考えた製品の開発をしてほしい。レジ袋の有料、無料ではなく、使用しないではなく、「作らない」。G20で2050までに……。と、もっと早くならないかなあ……。
県の力で……。 （70歳以上 女性）
- ・あるプラ製品メーカーでは、SDGsに関する取り組みとして、PLA（植物由来のプラスチック素材）やバイオマスの活用に力を入れている。高く評価してほしい。
（60代 男性）
- ・市町村による分別回収の実態にも差があり、高岡市は徹底されている方だと思うので、各自治体も見習い分別回収を実施していくことで、捨てる側の意識も高まると思う。
（50代 女性）
- ・便利ではあるが、ある日突然「プラスチックは悪者です」というブームになるのは、それはそれで良くない面もあると思う。医療器具のように「衛生面で使い捨てざるをえないもの」はきちんと見極めた上で取組みを推進しないといけないと思う。 （20代 女性）
- ・プラスチックは処理の仕方さえ間違わなければ、安価で便利なもの。一部ルールを守らない人がいるために使用禁止はもったいない気もする。適正な処理を行わないと、マイクロプラスチックとなり人体に影響するという事実を周知し続け、全員がルールを順守できれば使用を続ける道もあるのでは。 （30代 男性）

海洋環境について

- ・テレビで海の生態系にすごく影響しているのを知り、衝撃を受けた。 （40代 女性）
- ・動物、魚類が、プラスチックを食べ、死因となっている。海岸が汚染されている。やはり使用を控えるのが一番だ。 （60代 女性他1名）
- ・富山湾の漂流物8割が県内由来にはおどろいた。橋を含む道路には、ペットボトルや包装袋を見かけるが、汚れており、拾う気になれない。根本的には、企業がプラスチック製品を使わない方針で行う事が必要。代替として、紙製を使用すると、また木材資源のムダ使いと言われたいよう 使い分けが必要である。 （60代 男性）
- ・運河や河川などゴミが大量に浮かんでいるのをよく目にします。ゴミをポイ捨てる人の考えが知れないです。それらの人の思考を変えない限り、こうしたゴミは減らないと思います。 （20代 男性）
- ・富山湾のプラごみが県内からが8割だったと知り、他人ごとではなかったのだと思った。海へ遊びに行くと、海岸にはゴミが数多く打ち上げられているのを子供とみて、「このゴミ捨てたらだめだね」と言うだけだった。これからは、小さなゴミ袋でも持って行って、まだ海へ戻って行かないように、拾い持ち帰ることを子供と取り組んでいきたいと考えた。 （30代 男性）
- ・何故これだけ多くのプラスチックごみが、川から海へ流出されるのか解りません。これからもプラスチックの再利用を考えて、ごみの分別を今後も続けていきます。
（60代 男性）

- ・河川や海岸の清掃よりも、発生源の対策に重点をおく方が効果があると思う。
(50代 女性他1名)
- ・マイクロプラスチック問題は、食物として人が食べる事を考えると、楽観視できない問題であり、取組みに関心を寄せている。(40代 男性)
- ・遅い！マイクロプラについては、かなり以前から問題視されていた。取組みが遅い。袋の有料、無料ではなく廃止すること。(70歳以上 男性)
- ・マイクロプラスチックの中には、洗濯によるナイロン系の流出もあったと思うが、トレイなど必ず分別していても、服の素材までは、必ず綿や毛という訳にはいかない。そもそも、ごみを拾う対策ではなく、ごみにしない対策が必要である。(40代 女性)
- ・レジ袋の有料化や禁止を全企業が協力してほしい。また、海洋プラスチックが問題になっているので、ゴミとして捨てないように、河川、海岸の清掃に多くの人に参加し、実態を把握することが大事と思う。(70歳以上 女性)
- ・害のあるプラスチックが悪いことを知りながら、今まで放置していた責任は私たち一人一人にあり、残念である。(70歳以上 女性)
- ・できるだけ個人レベルで無駄な資源を使わず再利用できるものを利用するようにするが、プラ製品を使う企業が環境循環できるプラを作っていける仕組み作りが必要だと思う。低価格で利用できるよう行政の後押しも不可欠。マイクロプラスチックの害についてもっと普及啓発が必要ではないか。(30代 女性)
- ・海流に乗って、ゴミの溜まる個所の現状や自然分解するのに千年以上かかるといわれるこのゴミの影響についてもっと勉強し、早く削減に取り組むべきだ。企業側、行政側、消費者側ではなく、生活している人すべての問題として知恵を出し合ってもらいたい。プラスチック容器採用は、瞬く間に波及した。なぜ、その後の扱いを考えなかったのか。
(60代 女性)

昔の買物のように

- ・あまりにも多くプラスチックが使われているのに怖い感じがする。昔のように紙や入れ物を持って買い物をしたい。(70歳以上 女性)
- ・使い捨てプラスチックは確かに便利だが、あえて不便を楽しむ、丁寧な暮らしが理想です。
(50代 女性)
- ・古い時代のように、鍋など持って行って入れてくる。(70歳以上 女性)
- ・スーパーへ容器持参して肉や魚は量り売り等が良いと思う。 ・野菜、果物もばら売りでほしただけ買えたら良い。(70歳以上 女性)
- ・江戸時代、ゴミは換金でき、街はとてもきれいだったそうだ。現代、そのようなシステムが定着するとはとても思えないが、プラスチック製品の開発や行政からの資金提供などが実現するとすれば、リサイクル活動は、環境から個人に至るまで有益なものであると教育される社会があればよい。(40代 女性)

- ・昔は買物は、必要分小分けで精算してもらえた。最近の店は数量をまとめたもので、トレーを使用し、その分プラスチック類が沢山要ると思われる。 (70歳以上 女性)
- ・野菜を売るにトレーは必要がない。新聞にくるんでもらえば十分だ。梱包時の緩衝材も新聞紙を丸めて詰めてもらえば有難い。「ごみ」として目の前から無くなったら終わりではなく、その先どう処理されていくのか、小さい時から知ることが大切と思う。 (50代 女性)
- ・私が若いころは、小売店での対面販売だったので、ボウルや鍋を持参しての買物も可能だったが、今はスーパーで必要なものが揃う。利便性や衛生面を考えると個包装やトレーになってしまう気がする。トレーに関しては、高級感をだすためか、カラフルなものに入っているのをリサイクル可能な白一色に統一すればいいと思う。 (60代 女性)
- ・昔に戻ろう、酒、みそ、しょうゆ、油などは家から容器を持って行って量り売り、魚や野菜は新聞紙に包んで「まいどあり〜」だった。発砲スチロールなどの包装容器ではなく買い物かごを持ってお買いもの。現在、外国でもワイン、ビールをマイボトルで量り売りをしている映像をテレビで放映していた。最近、ストローの非プラスチック化が問われているが、容器もバイオプラスチック化の推進が必要と考える。また、最近マイ箸が一部の人にトレンドとして行われているがもう少し普及するとプラスチックのフォーク等の削減になるのではないか。 (70歳以上 男性)
- ・1960年代の生活にはもどれないとは思いますが、世の中便利になればなるほど難しいと思う。ストックしている食材は全てプラスチックに入っている。個々では、限度がある。 (60代 女性)
- ・プラスチックのなかった時代の生活を知ること、現代の私たちに取り入れられるものもまだまだあるのでは？スローライフが心の平和、充足、添加物の少ない食生活 e t c、次々とつながっていく気がする。(例えば、昔の豆腐やでの買い方など)。効率を求めるのではなく、丁寧に手をかける、余裕を持つことが私たちの心にも、地球環境にも良いバランスを保つことにつながっていくと思う。 (40代 女性)

プラごみの削減について

生活の見直し

- ・プラスチックごみ削減のために行政や企業だけでなく、個人が簡単に取り組めること(マイバック・マイボトルの持参など)が沢山あると思うので、普段の生活を見直し、プラスチックごみ削減につながる行動をしていきたいと思う。 (20代 女性)
- ・時短と言われる行動にプラスチックが多く関わっていると思うので、今一度ライフスタイルを考えてみる必要がある。 (40代 女性)
- ・時間がかかっても、身の周りの小さなことを地道に取り組んでいくしかない。取り返しがつかないと嘆く前にまずできることから行動する。 (70歳以上 女性)
- ・まずは自分ができることをやる。家族にも伝え削減できるよう協力する。 (40代 女性)

- ・共働き世代で毎日のゴミ分別にもかなりの時間を費やしていることにもかなりの負担とストレスを感じている。子育て世代も同じだと思います。消費者の負担にならない方向性をぜひ検討していただきたいです。 (50代 女性)
- ・地球環境の改善には、市民一人ひとりの意識と地域での活動が重要である。 (60代 男性)
- ・自分の生活の中で、当たり前のようにあるプラスチック製品のことを今迄深く考えたことがなかった気がした。テレビやネットなどでもっと行政が呼びかけることで私たちもプラごみ削減の大事さや、また地球環境の大事さが、今以上にわかるような気がした。ゴミなど捨てる際の個人の意識改革が必要な気がした。 (40代 女性)
- ・プラスチックごみが地球環境を悪化させていることを改めて認識した。自分も協力できるところはしていきたい。 (20代 女性)
- ・家庭、学校でのプラスチックごみの有害性や、自然保護教育と削減活動の実践。地域活動への参加。 ・企業への指導。 ・消費者の利便性のみを追求しない。 (60代 男性)
- ・何よりも、プラスチック製品を使わないようにすることが、プラスチックごみを削減する一番の方法と考えている。 (50代 男性)
- ・プラスチックごみの発生を最小限に抑制して、環境負荷の最小限に協力していきたい。 (70歳以上 女性)
- ・消費者と企業が一体となって取り組まねばならない。 (60代 男性)
- ・個人で協力できるものは取り組んでいこうと思うが、プラスチックの削減には、行政や企業の根本的な部分での努力(そもそもプラスチックを使用しない、代替品の提案など)が、必要である。 (20代 女性)
- ・EPR(拡大生産責任) の理解・促進。消費者は5Rの意識を高める。生産者は、ゴミ削減に向けた商品開発の視点が必要。 (40代 男性)
- ・富山市は、プラスチックごみを最終的にどのように処理しているのか知りたい。プラごみが、東南アジアの国々に輸出されていることもあと知り、自分が分別したゴミの行方が心配になっている。きちんと国内で処理されてほしい。 (50代 女性)

行政に望むこと

- ・全国をリードする取組みを希望します。バイオクラスター富山の知名度向上、活性化により、県内企業がますます発展できればよいと思います。 (40代 女性)
- ・富山県として、レジ袋対策をいち早く行政指導で全国的なアクションを。意識改革に国際フォーラムをひらく。 (60代 女性)
- ・県は美しい湾クラブに加入したばかりということもあり、プラごみ削減は喫緊の課題である。 (20代 女性)
- ・富山の中でもスーパー以外のコンビニやその他の店では、まだまだレジ袋が配布されるが、どの店もプラ袋は廃止して、有料袋も思い切って紙袋のみにするのがよいのでは。自

分のできる事としては、傘袋を持参したり、ファストフード店などのストローやカップのふたを断ってみようかと思った。このところプラスチックストローの廃止などの動きが活発になってきたが、プラ製品についてまだまだ知らないことが多いので、子供にもわかるような発信がふえていくと良い。 (40代 女性)

・今、世界的に問題視されているので、企業、メディアで国民に知らせていくことが大事だと思う。そして国民も行動に移すようにする。 (50代 女性)

・消費者は、まず日常自分ができることからとりかかり、さらに将来のことを考えて、自らの消費行動を見直して、プラスチックごみとなるよう物を身近に置かないようにしていくことが大切と思う。また企業も行政もすぐに出来ること、将来を見据えて今からとりかかることを、真剣に検討して、一体となってプラごみ削減を進めていく必要がある。

(60代 女性)

・削減は必要課題だと受取っています。マイバッグは常に持ち歩いています。環境について日本は先端を進んでいるかと思いきや、世界の中では課題が山積みの国なのだと気付かされています。身近な人と学び合い、情報を集め行動できるようにしたいと思います。行政～企業～消費者の連携が弱まっている印象があります。 (60代 女性)

・ユニクロのプラ袋→紙袋(有料)など、世の中へのアピール力のある企業の行動は大きい影響がある。そうした企業が率先して行動で示してほしい。自分もできるところから行動したい。 (40代 男性)

教育について

・「すぐ手の届く便利さ」.によって失われる又は制限される未来があることを広く共通認識する社会になってほしいと強く願います。そのためには、未来を創るこどもたちへの教育が必要不可欠である。 (40代 女性)

・家族みんなが楽しんで取り組めるような工夫が必要だと思う。子どもが「こんなのをしないといけないんだって」と言うと親も「やらないとね」となりやすいと思う。

(40代 女性)

・未来の子供たちのため早く厳しく制度で取り組んでほしい。 ・昔の時代を参考にしたらよいのでは。 (70歳以上 女性)

・知っていることが多かったが、子供たちにも教えて、伝えていきたい。 (40代 女性)

・子供の時にしっかりと教育すればいずれは効果がみられると思う。永い目で見て対策を考えるとよい。 (40代 男性)

・幼少時のしつけや、学校教育の一環として、ゴミ削減の習慣や意識を身に付けていくように感じている。 (70歳以上 女性)

・若い世代の家庭の燃えるごみ袋に、プラスチックの資源ごみになるものが入っている。どのように若い世代にプラごみの削減に協力してもらえるかが、課題である。

(70歳以上 女性)

- ・プラごみは、プラ製品の製造が問題ではなく、捨てる人のモラルが問題なので、レジ袋を有料にしても海洋ごみは減らない。ドイツ等は、20年以上も前から有料なのだから。
(60代 男性)
- ・山間地の道路わきなどにゴミのポイ捨てが非常に目立つ。マナー教室の徹底も必要であると思う。また、コンビニがゴミの始末が大変なので、ゴミ箱を外に置かなくなったことも要因でないかという意見も聞いた。人を当てにせず、自己責任できちんと始末できる人でありたい。
(70歳以上 女性)

現状の発信

- ・精肉、新鮮等のトレイを見直す。プラスチックゴミの現状をもっとわかりやすく発信すべきだと思う。家族で毎日「ゴミ」を確認する。分別も含めて各自の認識が必要だと考える。
(50代 女性)
- ・プラ問題を最近よくTVで見かける。廃プラが起こしている問題、欧米での廃プラ削減に向けた取り組みや成果を紹介することが大切だと思う。また、プラ回収の仕組みの見直し(包装プラとプラ性容器、汚れのついたプラなど、分別がわかりにくい)や再生利用の見える化が必要ではないか?
(50代 女性)
- ・問題意識がまだまだ低いと思われる。まず、ごみ問題について広く知ってもらう活動をしなければいけないと思う。
(50代 女性他1名)
- ・人の手によって自然や生態系が破壊されるのは気分が悪いので、美しい地球を取り戻すためにエコ活動に参加していきたい。
(20歳未満 男性他1名)
- ・何かを買う度に、ビニール素材を沢山ごみ箱に捨てているので、包装が少なくなるとういと思う。海岸のお掃除に「ビーチクリーン」という名がついていたところ、おしゃれイベントと間違えて参加した人もいたので、仕掛けてもいいかもしれない。
(40代 女性)
- ・最近、新聞やTVニュースでもよく問題として取り上げられているので、一人一人が問題意識を持つことが重要である。
(20代 男性)
- ・近年はプラスチックのごみ問題については注目しているので自分でできることはしていきたいと思います。なるべく使い捨ての製品を使わないようにするべきだと思います。
(20歳未満 女性)
- ・プラスチックごみ問題の環境汚染問題が年々ひどくなってきていると感じているので、対策をしなければならぬと思うし、企業でもする必要がある。
(20歳未満 女性他1名)
- ・プラスチックごみの問題を理解している人は少ないと思うので、まずは問題意識をもってもらうための活動をしたら良い。
(20歳未満 女性他1名)
- ・環境は私たちの生活と密接な関係にあり、環境を保護する責任がある。プラスチックの袋を減らし、ごみの分別に注意し、小さなことから環境を保護する。
(20代 女性)
- ・ニュースなどでプラスチックの問題が取り上げられていて、ある程度の状況は知っていた

けれど、それ以上に深刻なのだと感じた。 (20歳未満 女性)

- ・実際に環境に悪い影響を及ぼすことは多くの人に知られていると思うが、自分も含め、他人事のようにとらえている人が多数であると思う。 (20代 男性)
- ・プラスチックごみ問題がいかに環境汚染につながってか、大きな課題となっているかを、TVなどでPRしていくことが大事だと思う。(定期的なPRが重要!!) (40代 女性)
- ・プラスチック問題は避けることができない所まで来ていると感じた。力を持っている団体が解決に向かう仕組みを作り上げる必要があると考える。 (20歳未満 男性)

リサイクル

- ・リサイクルはできるが、ごみ削減は難しい。プラスチックは、輸送、重量、安全性、コストなどとても良いので、使用しないということとはできない。自然分解できる石油系由来では無いので、代替品ができれば良い。 (40代 女性)
- ・プラスチックごみが処理されて、1年でどれくらい残っていくのか知りたい。(再利用された以外に)減らすためにどうしたらよいか教えてほしい。 (60代 女性)
- ・分別しても汚れているものは再利用できないと聞いたことがあるが、どの程度だと再利用できなくなるのか分からない。どんな再利用の仕方があって、どれくらい再利用されているのかも知れたらいい。 (30代 女性)
- ・コンビニとかサービスエリアで回収されている分別ゴミは、確実にラベルをはがしたり洗浄されていないものがほとんどで、その後はどのように処理されているのか明確にしてほしい。そのまま海外等にごみ輸出されているのではと思う。 (70歳以上 女性)
- ・使い捨てではなく、自分なりに二度、三度使ってから捨てるようにしている。 (60代 女性)
- ・細かい様ですが、小さい事ですが、自分に出来る事はなるべく洗って再利用しようと思います。どうしても必要な茶、ジュース等は洗って自家製のお茶を冷して飲もうと思います。 (70歳以上 女性)
- ・個人ではなかなか意識してできないと思うので、そうせざるを得ない社会を作ることが大事である。 (20代 女性)
- ・プラスチックについて問題があるのはニュースなどで知っていたので家族と話して少しでも削減できるよう再利用やリサイクルをしてきました。もっと多くの人々が同じように考えて行動して行って削減できるようになればいいなと思う。 (20歳未満 女性)
- ・自販機を利用する人が多くいるのでどうしてもペットボトルの量が増えてしまう。自販機は飲み物だけ出てきて、マイボトルに入れる式にすれば、ペットボトルの量が減り、プラスチックごみ削減につながると考える。 (20歳未満 女性)
- ・ペットボトルの代替製品の開発が、これだけ様々な分野で研究がなされる中で、何故進まないのか疑問に思う。トレイについても、これは不要では？と思われる物にまで、使用されている事に疑問を感じる。 (70歳以上 女性)

- ・分別回収するときに、容器包装マークを確認しないで出している人を時々見かけますので、心がけるように協力を呼び掛けてほしい。（70歳以上 女性）
- ・高齢者が無理なくできるリサイクルのシステムを、容器のメーカーなども参加してもらい、改善してもらいたい。（50代 女性）
- ・メディアなどで、いろいろ考えさせられる問題だ。会社でも、プラスチックごみ問題を学ぶ機会があった。切実な問題なので、よく学び、ゴミの削減やリサイクルに協力したい。（60代 女性）
- ・むやみにプラスチック用品を捨てずに使えるものは使ったり、リサイクルを積極的に行っていきたい。（20歳未満 女性他2名）
- ・ペットボトルを買うのではなく水筒をもっていったり、買い物袋を持っていったりして削減を心がける。（20歳未満 女性）
- ・分別は勿論のこと、スーパー、資源回収日に持って行く等、一人一人の日常の中で自然にあたりまえに出来れば、ごみ削減に繋がるのでは。（60代 女性他1名）

過剰包装

- ・過剰に包装されて届く商品があり「そこまでやらなくても」と思うことが多々あるので企業側の対策が必要と感じる。（20歳未満 女性）
- ・スーパーの食品の過剰包装がひどい。例）オレンジをラップで包み、トレイに入れ、ラップをする。必要ないと思う。そのまま木箱に大量に入れて売ればよい。（20歳未満 女性）
- ・日本は過剰包装をしているところが多いので、簡易包装をすればよい。（20代 女性他1名）
- ・内容量に合ったサイズの容器にする（なかみが少ないのに容器が大きすぎる場合がある）。化粧品やお菓子等の容器は華やかな装飾をしない。（60代 女性）
- ・衛生管理や紙保護などから、難しい問題ですが、過包装は止めれば良いと思う。商品しか要らないといつも思う。（50代 男性）
- ・食品スーパー等におけるプラスチックトレイ、プラケースを利用した販売を禁止するような手段 施策を取らないとプラごみの削減は望めない。（50代 男性）
- ・自分のバイト先ではストローなど使用するかどうかお客さんに聞いている。そういう店が増えればよい。（20歳未満 女性）
- ・ファストフード店などでは小さい子にはプラスチック製のフォークを渡すが、大人や学生には金属製のフォークやスプーンを使ってもらうようにすればよい。（20歳未満 女性）
- ・理解できたが、一人一人が気を付けていないスプーンやストローは貰わないようにしたい。家に持ち帰る商品には、箸、スプーン、ストロー全部以前から断っている。（70歳以上 女性）
- ・今後買い物をする時は、レジ袋やおしぼり、フォーク等を断るなど、自分出来る事から削減に取り組んでいきたい。（20代 女性他2名）

- ・サービスでつけるスプーン、フォークを有料化。（４０代 女性他１名）
- ・このアンケートを記入するにあたり、普段トレイに入っている食品はあまり購入していないことに気づきました。ただ提供されるレジ袋やスプーン、ハンガーなどは、自ら断ることはしておらず、今後は、積極的に削減に協力していきたい。（５０代 女性）
- ・プラスチックごみ削減は大切なことであると考えます。まずは、お店（スーパー）やコンビニで配布されるレジ袋やプラスチックスプーンなどから減らせるようにすべきだ。（２０代 女性）
- ・プラスチックごみが多く家庭からでていますが、ゴミ回収日が週１回月４回となっている。回収日を増やして欲しい。燃えるゴミとしている家庭もあるのでは？ごみ削減ができるまではきちんと分別することが必要である。（４０代 女性）

レジ袋について

- ・最近のニュースで富山のレジ袋無料配布廃止が取り上げられていて嬉しく思いました。私もレジ袋をいつももらわないようにしています。そういう動きが富山から全国にも広がってほしい。（２０歳未満 女性）
- ・レジ袋の廃止はなかなか難しいと思うけど、それを実行することで少しでもプラスチックの削減になると思う。（５０代 女性）
- ・多少不便になっても構わないので、レジ袋は廃止し、プラスチックを代替できる素材を使用する等、大胆で効果の大きい取組みが必要と考える。プラスチック業界、包装業者への影響が懸念されるが、プラスチックごみを効果的に減少させるには必要である。（５０代 男性）
- ・レジ袋の有料化など、最初は不便でも取組を継続することで当たり前になる。（４０代 男性）
- ・日頃心がけてるエコバックを持って買い物をするのをこれからも心がけようと思う。（２０代 女性 他３名）
- ・お店でもレジ袋が欲しいときは１枚５円などで売っていたり、専用の買い物かごを販売していたりなど身近なところから削減活動をしていけたら良い。（２０歳未満 女性）
- ・常に買い物袋は持参し、無駄になる容器や袋はもらわない。（７０歳以上 女性他１名）
- ・マイバッグを持っているが、コンビニでも使おうと思った。（３０代 女性他２名）
- ・不要なレジ袋は貰わないように心掛けることは大事だと思う。（２０代 女性）
- ・最近レジ袋を無料提供する店が減ったことがとても環境に良いと思った。コンビニでも同じ仕組みがあればよい。外でゴミのポイ捨てをする人をよく見かけるので、だめだという認識が足りない。リサイクルも大事だがその前にプラスチックを使わないようにすることが一番大事だと考える。（２０歳未満 女性）
- ・自分でエコバックを持ったりすることから始めるべきだし、スーパー以外でもコンビニ等でもエコバック化を進めるべきだと思う。（２０歳未満 女性）

- ・1人ひとりがマイバックの持参など小さなことにも気を付けることで全体的にゴミが減らせるので心がけが大切だ。無駄を省いて必要最小限にとどめるべきだ。

(20歳未満 女性)

- ・服屋でもレジ袋が有料化になっているのはとてもエコなことだと思った。(20代 女性)
- ・県外の服屋では、ショップ袋が20円でした。富山でも有料にするか、エコポイントをつけるかにすればいいと思います。(30代 女性)

- ・買い物に行く時はエコバックを持参したり不要なものは断るなど、小さなことから自分にできることを考えて、これからの生活で意識してみようと思う。(20歳未満 女性)

- ・物を消費する側、生産する側、どちらもプラスチックごみ削減を考えて生活していくことが大切だとわかった。私はコンビニの買い物で今後もレジ袋を断ることからごみの増えない生活を続けていきたい。(20歳未満 女性)

- ・スーパーやコンビニでもらうレジ袋は、マイバッグを持っていれば不要なので、いつも断っている。少しでも多くの人がマイバッグに切り替えてくれれば、ごみ削減につながっていくと思うので、店側でもそのような呼びかけをしたら良い。(30代 女性)

- ・コンビニでレジ袋をもらわないのは難しいと思う。(20歳未満 女性)

- ・今後自分に不要だと思う物は断り、マイバックなど自分が持参できるものをしっかりと持っていて、プラスチックごみ削減に協力していきたいと思う。(20歳未満女性他1名)

- ・レジ袋はあまり必要ではないと思うので、マイバックを推進することが大切だ。

(20歳未満 女性他1名)

- ・レジ袋の有料化をコンビニやドラッグストアなどでも進めるべきだと考える。よく利用するところだからこそ、削減できれば大きな一歩となる。(20歳未満 女性)

- ・コンビニの袋を有料にすればよいと思う。(20代 男性)

- ・レジ袋をなくして、エコバッグにすればいいと思う。(20歳未満 男性)

- ・スーパーで買い物にはマイバッグを持つ。無駄になるものは買わない。

(20代女性他1名)

- ・コンビニなどでもレジ袋の無料配布はやめるべきだと思う。(20歳未満男性)

意識

- ・身の回りからしっかり意識して取り組んでいこうと思った。無駄使いが多いので、減らしていこうという改善をこのアンケートで気付かされた。(20歳未満 男性)

- ・自分で出したゴミは、責任を持って、決められたように仕分けて始末するように心掛けている。(70歳以上 女性)

- ・ペットボトル入り飲料をできる限り買わない。会合でもペットボトル飲料の配布は必要がない。(50代 女性他1名)

- ・紙パックでペットボトルみたいな形を増やしていくといいと考える。(20代 男性)

- ・日本酒のビン等はほぼ回収されていると思う。プラスチックは大小様々だが、品種毎に回収システムを構築する。 (60代 男性)
- ・必要なもの以外のものは、もらわないようにするなど、自分ができることは、しっかりと取り組んでいきたいです。 (20歳未満 女性他4名)
- ・削減はした方が良いことはわかっているが、買うとなったらプラスチックの方が安い。 (20歳未満 女性)
- ・プラスチックごみ削減や環境に配慮した社会にシフトチェンジしないとイケない。 (20代 女性)
- ・自分が出したゴミについては、最後まで責任を持つことが、必要だ。(50代 男性他1名)
- ・ごみ削減を COOL なこと (SNS 映え) と捉えて、活動できるような取り組み、ごみ削減 SPORTS とかレイド (協力) バトル的なものもあったら面白そう。 (20代 男性)
- ・環境への影響を考慮するならば、一人一人が真剣に取り組まねばならない課題とを感じる。 (40代 男性)
- ・近くて遠い未来、次世代のためにも、ゴミの削減に努力する。 (60代 女性)
- ・「ポイ捨てしない」を自ら実行することが一番大事である。 (60代 女性)
捨てる人は拾わない。捨てない人が拾う。 人間の過剰な便利の為に、関係のない生き物達が絶滅 (倒れる) する。同じ場所に (地球) に住む生き物なのに不平等ですね。 (30代 男性)
- ・一人一人がプラスチックごみ削減に向けた取り組みを着実に実施し、取り組みの輪が広がっていくことが重要である。 (50代 女性)
- ・私たちの生活にはプラスチックに依存していることが多いので、プラスチック製品から、リサイクルできるものだったり、自然に戻すことができる製品にシフトできたらいいなと思った。 (20歳未満 女性)
- ・自然環境に良くない事例について、1人1人が自覚をもつようにする。不要なものは、断ることが必要ではないかと思う。 (50代 女性)
- ・外出中、ゴミ箱等が近くにない場合に対処できるよう、ゴミ袋になるものを普段から持ち歩く。 (20代 女性)
- ・地域でゴミ拾いなど地域交流を深める意味もある活動をするべきだと思う。 (20歳未満 女性他1名)
- ・プラごみは減らないと思うので、分解する or 生態系影響を与えないものを開発していく。 (60代 男性)
- ・ごみの分別などを一層心がけたい。 (20代 男性他3名)
- ・プラスチックごみがどれほど影響を与えるか初めて知った。 (20歳未満 女性他1名)
- ・プラスチックに限らず、ごみを減らす努力をすること。 (40代 女性他2名)
- ・プラスチックごみを削減するためには、消費者と企業と行政の協力が必要だ。 (20代 女性)

- ・プラスチックごみ削減はとてもよいことだが、今の生活にプラスチックが大きく関わっているため、とつぜん削減されても困るのが現状だと思う。（20代 男性）
- ・最近のニュースで亀の鼻にプラスチックのストローがつまっていたのを見たが、人間だけで生きているわけではないので、一人一人がもっと他の生き物に対して配慮することが必要。（20代 男性）
- ・プラスチックごみに対しての意識が足りていないと思うので、もっと問題を取り上げるべきだと思う。（20代 男性）
- ・チラシ、パンフなど入っているのをプラではなく、ホッチキスで止めたり、簡単なものにしていく。（30代 女性）
- ・紙による代替えをもっと広めてほしい。（50代 女性）
- ・一人ひとりプラスチックのごみ削減でできることを見つけて、削減する努力をするべきだ。（20歳未満 女性他2名）
- ・これから無駄になるものを買わないように心がけようと思う。（20代 男性他1名）
- ・自分にできることを見つけて、意識を高めていきたい。（20歳未満 男性他4名）
- ・プラごみを捨てる時は、責任を持って適切に処理する。（20代 男性）
- ・プラスチックは環境に良くないので、代用できるものを探す。（20歳未満 男性）
- ・道路にポイ捨てされているプラごみを減らすべきだと思う。（20歳未満 女性）
- ・プラスチックごみの削減は決して無理な議題ではないので、人々が意識して続けなければならないと思う。（20歳未満 男性他1名）
- ・使い捨てになるものを受け取らないことを心がけたいと思った。（20代 男性他2名）
- ・ビニール袋を使わないことから始めていきたい。（20歳未満 男性）
- ・3Rを考えながら物を使う。（20歳未満 男性他1名）
- ・まずは自分でできることをやろうと思うが、自然還元できるよう研究も進めてほしい。（50代 女性他1名）
- ・ストローを木にした方がいいと思う。（20歳未満 男性）
- ・分別回収をもっと簡単にしてほしい。（30代 男性）
- ・ペットボトルのフィルムが剥がしにくいものがある。企業に考えてほしい。（60代 女性）
- ・企業が使わないようにしてくれたらいい。（50代 女性他1名）
- ・改めて理解が深まったので、より意識を高めていきたいと思った。（20代 女性他1名）
- ・自分でできる事は積極的にやりたいが、個人では限度があると思う。（60代 女性）
- ・私たちは後世を思って行動すべき。（20代 男性）
- ・人類が取り組まなくてはいけない課題の一つである。（20代 男性）

プラスチックごみ問題ってなんだろう！

～消費者ができるプラスチックごみ削減の取組み～

富山県消費者協会・消費生活研究グループ連絡協議会（令和元年6月）

<調査の目的>

私たちの便利で快適な生活は、様々なプラスチック製品に支えられています。ペットボトルや食品トレイ、レジ袋や使い捨てのスプーン・ストローなど、どれも私たちの生活に深く浸透しています。

一方で、プラスチックごみは深刻な問題となっています。捨てられたプラスチックごみは川から海へ流され、やがて5ミリ以下のマイクロプラスチックとなり海洋に拡散します。いったん流出すると回収は難しく、自然分解に長い時間がかかるため地球を汚し続けます。また、マイクロプラスチックを魚介類が食べることで有害化学物質が食物連鎖に取り込まれ、人体や生態系に悪影響を及ぼすことが懸念されています。さらにプラスチックごみの増加によりリサイクルや焼却・埋め立て処理が追いついていないことも世界的な課題となっています。

プラスチックごみの発生には、私たちが日常利用する使い捨てプラスチックが大きく関わっています。プラスチックごみの発生を抑制し、環境負荷を最小限にするため、消費者としての私たちに何ができるか、本調査を通して共に考えてみませんか？

<回答方法>

- ・全部で6ページあります。当てはまる番号の□に✓印をつけてください。
- ・「その他」を選択された場合、()内に具体的な内容をご記入ください。
- ・なお、回答いただいた内容は統計的に処理し、個人の情報を公表したり、調査の目的以外に使用することはありません。

あなた自身についてお聞きします。（記入漏れにご注意ください。）

- ・性別 ①□ 男 ②□ 女
- ・年代 ①□ 20歳未満 ②□ 20歳代 ③□ 30歳代 ④□ 40歳代
⑤□ 50歳代 ⑥□ 60歳代 ⑦□ 70歳以上
- ・職業 ①□ 給与生活者 ②□ 自営・自由業 ③□ 家事従事者
④□ 学生 ⑤□ 無職 ⑥□ その他 ()
- ・職業で、①②と答えられた場合、共働きですか。 ①□ はい ②□ いいえ
- ・家族構成 ①□ 1人(单身) ②□ 夫婦のみ(1世代)
③□ 夫婦と子供または親と自分(たち)(2世代)
④□ 親と子供と孫(3世代) ⑤□ その他 ()
- ・住所(市町村_____市・町・村)
- ・住居の形態 ①□ 戸建 ②□ 集合住宅

I プラスチックについて

問1 プラスチックに関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)

- ① プラスチックは、主に石油や天然ガスから作られる。
- ② プラスチックは、一般に自然環境下での分解性が低く、いったん自然界に放出されてしまうと、その回収、処理が困難である。
- ③ 容器包装リサイクル法(1995年)は、消費者に「排出抑制」と「分別排出」、市町村に「分別収集」、事業者「再商品化(リサイクル)」することを義務づけた法律である。
- ④ 容器包装リサイクル法の対象となるプラスチックには、識別マークの表示が義務づけられている。
- ⑤ 消費者が、プラスチック製容器包装を資源物として出すときは、識別マークを確認して出すことが求められている。

問2 プラスチックによる環境汚染に関する次の記述のうち、あなたが知っている項目はどれですか。(いくつでも)

- ① 私たちの身の回りで放置されたプラスチックごみが、風に飛ばされ、川や海へと流れ着いている。
- ② プラスチックごみが劣化して、5ミリ以下の「マイクロプラスチック」に変化し、魚や鳥がえさと間違えて食べて、生態系に影響している。
- ③ 今後、プラスチックごみの海外への輸出が難しくなり、国内ですべての廃プラスチックを処理しなければならなくなる。
- ④ 環境省の調査では、富山湾の海洋漂着物の8割が県内由来のものであり、なかでもプラスチック、発泡スチロールの多さが課題と指摘されている。
- ⑤ 国は、全国に先がけてレジ袋の無料配布を廃止した富山方式を参考にレジ袋の無料配布廃止を義務化することを検討している。

II プラスチックと容器包装の扱いについて

問3 プラスチックの分別回収の際、リサイクル識別表示マークを確認して出していますか。(一つだけ)

- ① 確認している
- ② ある程度確認している
- ③ あまり確認していない
- ④ まったく確認していない

	
プラスチック製容器包装マーク	ペットボトルマーク

問4 小売店・飲食店などが提供する「プラスチックに関するサービス」に対して、どのように感じていますか。

	い 必要ではな い	い え ない どちらとも	必要である
① 小売店などで、消費者の意思を確認しないで渡されるレジ袋	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
② 小売店などで、消費者の意思を確認しないで渡される 箸・フォーク・スプーン	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
③ 食料品購入時に、消費者の意思を確認しないで渡される 使い捨てのおしぼり	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
④ 販売されている弁当容器などの中の プラスチック製のカップやバラン（仕切り）	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑤ ファーストフード店などで、消費者の意思を確認しないでつけられる ストローやカップのふた	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑥ 生鮮食品が 食品トレイに入っていること	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑦ 贈答品のお菓子に入っている フォークやスプーン	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑧ クリーニング店で、クリーニング済みの衣類等につけられる ハンガーやビニール袋	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑨ 雨天時に、商店などの入り口で提供される プラスチック製の傘袋	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑩ ホテル、旅館などで、部屋に置いてある 無料のアメニティグッズ（歯ブラシセット、化粧品など）	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑪ 通販などで購入した際に、商品よりもかなり大きな箱、包装で配送されること	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>
⑫ その他「プラスチックに関するサービス」で必要がないと思うものがあれば、ご記入ください			

問5 日頃、プラスチックごみの削減のために、心がけていることは何ですか。

	いつも心がけている	たまに心がけている	あまり心がけていない	全く心がけていない
① スーパーでの買い物には、マイバッグを持参し、レジ袋を断る	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
② コンビニ、ドラッグストアなどでの買い物には、マイバッグを持参し、レジ袋を断る	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
③ 外出の際は、マイボトルを持参する	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
④ ファーストフード店などで、ストローを断る	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑤ 旅行や出張に出かける際は、自分の歯ブラシセットや化粧品などを持っていく	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑥ 雨天時には、傘とともに傘袋を持っていく	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑦ 詰め替え用商品を選ぶ	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑧ 過剰包装を断る	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑨ その他、上記以外で心がけていることがあれば、ご記入ください				

問6 日頃、プラスチックごみによる環境汚染を避けるために、心がけていることは何ですか。

	いつも心がけている	たまに心がけている	あまり心がけていない	全く心がけていない
① ごみのポイ捨てはしない	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
② 川や海、山のくぼ地などにごみを捨てない	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
③ 外出やレジャーの際にはごみを持ち帰る	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
④ ごみが風に飛ばされないように、管理する	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑤ 学校やスーパーなどで行われている資源回収の際は、分別方法を守る	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑥ 地域の清掃活動に参加する	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑦ 海岸の清掃活動に参加する	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑧ 町内会など地域ぐるみで実施している資源ごみの分別回収に参加する	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>
⑨ その他、上記以外で心がけていることがあれば、ご記入ください				

Ⅲ これからの消費者行動等について

問7 今後、プラスチックごみの削減のために、消費者行動をどのように変えていけばいいと思いますか。(3つまで)

- ① 無駄になるものは買わない
- ② 使い捨てプラスチック製品をできるだけ使わない、もらわない
- ③ ものを買うときは、廃棄するときのことも考えて買う
- ④ できるだけ長く使える製品や再生利用できるものを買う
- ⑤ 自分が出したゴミは、最後まで責任を持って適正に処理する
- ⑥ 身の回りの道に落ちてるごみや、河川や海に落ちているごみは、拾って持ち帰り、分別収集に出す
- ⑦ 地域や学校の清掃活動に積極的に参加する
- ⑧ 容器包装にバイオプラスチック(下記※参照)を導入するなど、割高でもプラスチックごみの削減に取り組む企業を応援する
- ⑨ その他()

問8 プラスチックごみを削減するために、企業に望むことは何ですか。
(3つまで)

- ① 必要以上に商品にトレイを使わない
- ② 使い捨て容器ではなく、繰り返し使えるリターナブル容器を取り入れる
- ③ 製品を開発するときに、廃棄後の処理まで考えて作る
- ④ 過剰包装を避ける
- ⑤ レジ袋の無料配布を廃止する
- ⑥ プラスチックの再生に取り組む
- ⑦ 梱包の際の緩衝材を、発泡スチロールやプラスチックでなく、段ボールなどの素材にする
- ⑧ スーパーなどのプラスチック回収活動の実績や成果を公表する
- ⑨ バイオプラスチック(下記※参照)をもっと活用する
- ⑩ ペットボトルを返却したら、ポイントを付与される仕組み(デポジット制など)を導入する
- ⑪ その他()

※バイオプラスチックとは、

微生物によって生分解される「生分解性プラスチック」及び生物資源(バイオマス)を原料に製造される「バイオマスプラスチック」の総称です。
プラスチックに起因する様々な問題の改善に役立ちます。

問9 プラスチックごみを削減するために、行政に望むことは何ですか。

(3つまで)

- ① プラスチックごみの問題について、広く普及啓発活動を行う
- ② 行政・企業・NPO法人・消費者団体などが連携して、ペットボトルなどプラスチック製品を減らす目標を立てて、削減に取り組む
- ③ プラスチックごみの削減に取り組む企業などを評価する仕組みを作る
- ④ 美しい山河を守るためのキャンペーンを行い、河川清掃、海岸清掃に参加するよう呼びかける
- ⑤ 自然還元可能な容器の研究開発などに対して、資金を提供する
- ⑥ 県民のエコライフを促進するための「とやまエコ・ストア制度」を活用して、プラスチックごみの削減を推進する
- ⑦ プラスチックごみ収集とリサイクルのシステムを見直し、改善する
- ⑧ その他 ()

問10 本アンケートを通して、プラスチックごみ削減のために、今後行動しようと思うことはありましたか。(1つだけ)

- ① よく理解できたので、自分ができることからやろうと思った
- ② だいたい理解できたが、自分が削減できるかどうかわからない
- ③ 理解できたが、個人ができることはあまりなく、企業や行政に頼るしかないと思った
- ④ あまり理解できなかつたので、もっと知りたいと思った
- ⑤ 理解できなかつたし、削減に協力したいとも思えなかつた
- ⑥ その他 ()

○「プラスチックごみ削減」についてのあなたの考えを、ご自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

この調査に関するお問い合わせ先
富山県消費者協会（県民共生センター内）
TEL 076（432）5690
FAX 076（432）5693

**「プラスチックごみ問題ってなんだろう！
～消費者ができる
プラスチックごみ削減の取組み～
調査報告書**

富山県消費者協会

〒930-0805

富山市湊入船町 6 - 7
(県民共生センター内)

TEL 076 - 432 - 5690

FAX 076 - 432 - 5693